序

上ノ国町は、北海道夜明けの地として多くの文化財を有し、その中でも史跡上之国館跡（花沢館跡・勝山館跡・洲崎館跡）の３館では北の中世史において重要な役割を担っていたことが知られ、長い時代を経て今に受け継がれています。

史跡上之国館跡のうち勝山館跡は、前計画に基づき昭和 54 年度から平成 22 年度まで発掘調査・整備事業が行われ、北日本の中世史を書き換えるような極めて貴重な知見を得ることができました。そのお蔭をもちまして、現在では高校の教科書に勝山館跡が紹介されるなど全国的にみましても重要な史跡であることが次第に認識されつつあります。

しかしながら、花沢館跡及び洲崎館跡はこれまでの調査研究によって、その重要性を認識しながらも、いまだその内容について不明な点が多く山積している状況でした。今年度は道南十二館の一つとされる花沢館跡と勝山館跡の前身にあたる洲崎館跡の発掘調査を実施し、今後の史跡整備に向けた取り組みを推進しております。

現在では、かつての事業が始まった時代と比較して、我々を取り巻く社会状況というのは全く異なっており、この厳しい環境の中で行政としてどのようなことができるのか、今一度課題に対して真摯に取り組み、歩を進めて参りたいと思う所存でございます。

事業推進にあたり文化庁、北海道教育委員会、史跡上之国館跡整備検討委員会の皆さまをはじめとする各関係機関の方々に多大なご協力を賜りましたことを衷心より感謝申し上げるところであり、今後におきましてもより一層のご教導をお願い申し上げます。

令和２年３月

北海道上ノ国町教育委員会教育長　　矢　代　智　樹

例　言

1．　本書は史跡上之国館跡のうち花沢館跡、洲崎館跡の町内遺跡発掘調査等事業に伴う平成31年度の遺構確認調査の報告書である。
2．　花沢館跡は、北海道檜山郡上ノ国町字勝山に位置し、遺跡番号がC-02-70である。洲崎館跡は、北海道檜山郡上ノ国町字北村に位置し、遺跡番号がC-02－25である。
3．　発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、文化庁の国庫補助事業、地域づくり振興補助金、上ノ国町で負担した。
4．　本書の編集・執筆は、塚田・櫻井が行なった。遺構・遺物の実測図及び図版等の作成は、各作業員が分担して行なった。
5．　本書に掲載した写真の撮影は、塚田が行なった。写真の撮影は、デジタル一眼レフカメラを使用した。
6．　発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。
空中写真撮影・地形測量－株式会社トラスト技研
7．　発掘調査成果の一部は、現地見学会、発掘調査報告書等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書の内容が優先する。
8．　挿図の縮尺は、各図にスケールを付して示した。写真の縮尺は不統一である。
9．　遺物の点数については、現場での取り上げ点数を表す。
10．　過年度調査の遺構の表記は、その遺構が検出された調査年度を遺構番号の前に付し、’98 土壙4、’07 竪穴1のように表記した。
11．　土層の色調観察には、「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局1993）を使用した。
12．　土器・陶磁器の分類は、以下に基づいて行なった。
青磁－横田・森田編年・上田編年(上田1982)をもとに作成された国立歴史民俗博物館の分類表記(国立歴史民俗博物館1994)、白磁－森田編年(森田1982)、染付－小野編年(小野1982)、瀋州窯系染付－山川編年（1994)、瀬戸・美濃－藤澤編年(藤澤2002)、珠洲－吉岡編年(吉岡1994)、越前－朝倉氏遺跡資料館報告書の分類表記(朝倉氏遺跡資料館1983)、肥前系陶磁器－大橋編年(九州近世陶磁学会2000)、縄文土器－北海道埋蔵文化財センター報告書の分類表記、(北海道埋蔵文化財センター2006)
13．　出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。
14．　調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。
記して感謝申し上げたい（敬称略)。
文化庁文化資源活用課　五島昌也　文化庁第二課　森先一貴　藤井幸司　北海道教育庁文化財・博物館課　西脇対名夫　中田由香　村本周三　(公財)北海道埋蔵文化財センター　越田賢一郎　長沼　孝　田口　尚　福井淳一　大泰司　統　(一財)道南歴史文化振興財団　荻野幸雄　弘前大学　関根達人　小岩直人　札幌学院大学　臼杵　勲　大塚宜明　澤井　玄　厚沢部町役場　石井淳平　厚真町教育委員会　奈良智法　五所川原市教育委員会　榊原滋高　函館市教育委員会　野村祐一　吉田　力　七飯町教育委員会　山田　央　北斗市教育委員会　森　靖裕　時田太一郎　松前町教育委員会　前田正憲　佐藤雄生　西川　萌　八雲町教育委員会　柴田信一　大谷茂之　森町教育委員会　高橋　毅　片山弘喜　文化財サポート　田才雅彦　函館市　松崎水穂

引用参考文献

青森県史編さん考古部会 2003『青森県史　資料編　考古 4』中世・近世
朝倉氏遺跡資料館　1983『県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』
網野善彦・石井進編　2001「上之国勝山館跡と夷王山墳墓群から見えるもの」『北から見直す日本史』大和書房
石井　進　2002「中世のかたち」『日本の中世 1』中央公論新社
上田秀夫　1982「14～16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第 2 号
宇野隆夫　1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告書』第 40 集
小野正敏　1982「15、16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第 2 号
上ノ国町教育委員会　1980～2005『史跡上之国勝山館跡Ⅰ～XXⅥ』2006・2007『史跡上之国館跡整備事業報告書Ⅰ～Ⅱ』
上ノ国町教育委員会　2001～2002『町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅳ～Ⅴ』
上ノ国町教育委員会　2007『町内遺跡発掘調査等事業報告書Ⅹ』
上ノ国町教育委員会　2008～2011『史跡上之国館跡Ⅰ～Ⅳ』
上ノ国町教育委員会　2011『国指定史跡上之国館跡　花沢館跡　洲崎館跡　勝山館跡　保存管理計画』
国立歴史民俗博物館　1994『日本出土の貿易陶磁東日本編 1 」国立歴史民俗博物館調査報告書Ⅴ
塚田直哉　2015「北海道上ノ国町洲崎館跡出土の中世陶磁器」『貿易陶磁研究』35
永井久美男　1998『近世の出土銭Ⅱ－分類図版篇－』兵庫埋蔵銭調査会
永井久美男　2002『新版　中世出土銭の分類図版』兵庫埋蔵銭調査会
藤澤良祐　2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第 10 輯
北海道庁　1916『北海道史』
北海道庁　1918『北海道史附録地図』
北海道庁　1969「新羅之記録」『新北海道史』第七巻　史料一
北海道埋蔵文化財センター　2006「Ⅰ．4 (5) 土器の分類」『森町森川 3 遺跡 (2)』第 234 集
松崎岩穂　1956『上ノ国村史』　上ノ国村
松崎岩穂　1962『続上ノ国村史』　上ノ国村
松崎水穂　百々幸雄　中村公宣　1981「北海道洲崎館発見の中世遺物と頭骨」『考古学雑誌』第 67 巻第 2 号
森田　勉　1982「14～16 世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第 2 号
山川　均　1994「漳州窯系陶磁器に関する編年的研究」『大和郡山市文化財年報・紀要Ⅰ』
吉岡康暢　1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館

目 次

序／例言／引用参考文献
本文目次／挿図目次／表目次／写真目次

Ⅰ 史跡上之国館跡の概要……1
1. 史跡上之国館跡 花沢館跡 洲崎館跡 勝山館跡の概要……1
2. 史跡上之国館跡の現況……1
3. 整備の状況……1
4. 維持管理……2
5. 普及啓発……2

Ⅱ 遺構確認調査……7
1. 調査に至る経緯……7
2. 調査位置……7
3. 調査方法……8
4. 調査体制……8
5. 調査経過……8
6. 基本層序……9
7. 花沢館跡の調査……10
8. 花沢館跡の出土遺物……30
9. 洲崎館跡の調査……41

Ⅲ まとめ……43

挿図目次

第1図 史跡上之国館跡及び国・道指定文化財位置図……3
第2図 史跡上之国館跡 位置図……3
第3図 史跡上之国館跡及び周辺遺跡 位置図……4
第4図 花沢館跡 現況地形図・調査区位置図……5
第5図 洲崎館跡 現況地形図・調査区位置図……6
第6図 第1調査区 平面図・セクション図……21
第7図 第2・3調査区 平面図・セクション図…22
第8図 第4・5調査区 平面図・セクション図…23
第9図 第6・7調査区 平面図・集石遺構・セクション図……24
第10図 第8調査区 平面図・セクション図……25
第11図 第9・10調査区 平面図・セクション図…26
第12図 第11-1調査区 平面図・セクション図…27
第13図 第11-2調査区 平面図・セクション図…28
第14図 第11-3調査区 平面図・セクション図…29
第15図 出土遺物(青磁・白磁・古瀬戸)……35
第16図 出土遺物(珠洲)……36
第17図 出土遺物(鉄製品・銅製品)……37
第18図 出土遺物(銅銭)……38
第19図 出土遺物(銅銭)……39
第20図 出土遺物(骨角器・石製品・石器)……40
第21図 第1・2調査区 平面図・セクション図…42

表目次

表1 第1調査区 東西南壁セクション 土層観察表(A～A') ……19
表2 第2調査区 東西北壁セクション 土層観察表(A～A') ……19
表3 第3調査区 東西北壁セクション 土層観察表(A～A') ……19
表4 第4調査区 東西北壁セクション 土層観察表(A～A') ……19
表5 第5調査区 南北西壁セクション 土層観察表(A～A') ……19
表6 第6調査区 南北東壁セクション 土層観察表(A～A') ……20

表 7　第 6 調査区　東西南壁セクション　土層観察表(A'～A'')……20
表 8　第 6 調査区　東西南壁セクション(土壙 1・2)土層観察表 (B～B')……20
表 9　第 7 調査区　東西北壁セクション　土層観察表 (A～A')……20
表 10　第 8 調査区　南北西壁セクション　土層観察表 (A～A')　(B～B')……20
表 11　第 9 調査区　東西北壁セクション　土層観察表(A～A')……20
表 12　第 10 調査区　東西北壁セクション　土層観察表(A～A')……20
表 13　第 11-1 調査区　東西南壁セクション　土層観察表(A～A')……20
表 14　第 11-1 調査区　東西北壁セクション(Pit5)土層観察表 (B～B')……20
表 15　第 11-2 調査区　東西北壁セクション　土層観察表 (A～A')……20
表 16　第 11-3 調査区　東西北壁セクション　土層観察表 (A'～A'')……20
表 17　花沢館跡出土遺物集計表……31
表 18　花沢館跡出土銭貨集計表……31
表 19　中世陶磁器　種類・器種別組成表(全体)……32
表 20　青磁　器種・分類別組成表……32
表 21　白磁　器種・分類別組成表……32
表 22　古瀬戸　器種・分類別組成表……32
表 23　珠洲　器種・分類別組成表……32
表 24　花沢館跡　出土遺物観察表……33
表 25　第 1 調査区　南北西壁セクション　土層観察表(A～A')……41

写真目次

PL.1　遺構確認調査 1(第 1 調査区)
PL.2　遺構確認調査 1(第 1 調査区)
PL.3　遺構確認調査 1(第 2 調査区)
PL.4　遺構確認調査 1(第 2 調査区)
PL.5　遺構確認調査 1(第 3 調査区)
PL.6　遺構確認調査 1(第 4 調査区)
PL.7　遺構確認調査 1(第 5 調査区)
PL.8　遺構確認調査 1(第 5 調査区)
PL.9　遺構確認調査 1(第 6 調査区)
PL.10　遺構確認調査 1(第 6 調査区)
PL.11　遺構確認調査 1(第 7 調査区)
PL.12　遺構確認調査 1(第 8 調査区上)
PL.13　遺構確認調査 1(第 8 調査区下)
PL.14　遺構確認調査 1(第 8 調査区下)
PL.15　遺構確認調査 1(第 9 調査区)
PL.16　遺構確認調査 1(第 9 調査区)
PL.17　遺構確認調査 1(第 10 調査区)
PL.18　遺構確認調査 1(第 10 調査区)
PL.19　遺構確認調査 1(第 11-1 調査区)
PL.20　遺構確認調査 1(第 11-1 調査区)
PL.21　遺構確認調査 1(第 11-2 調査区)
PL.22　遺構確認調査 1(第 11-2 調査区)
PL.23　遺構確認調査 1(第 11-3 調査区)
PL.24　遺構確認調査 1(第 11-3 調査区)
PL.25　遺構確認調査 1(第 11-3 調査区)
PL.26　遺構確認調査 2(第 1 調査区)
PL.27　遺構確認調査 2(第 1 調査区)
PL.28　遺構確認調査 2(第 2 調査区)
PL.29　遺物写真(青磁)
PL.30　遺物写真(白磁、珠洲)
PL.31　遺物写真(珠洲)
PL.32　遺物写真(鉄製品)
PL.33　遺物写真(銅銭)
PL.34　遺物写真(銅銭)
PL.35　遺物写真(銅製品、骨角器)
PL.36　遺物写真(石製品、石器)

Ⅰ　史跡上之国館跡の概要

１．史跡上之国館跡　花沢館跡　洲崎館跡　勝山館跡の概要

花沢館跡・勝山館跡は、昭和52年に国の史跡に指定され、さらに平成18年3月に洲崎館跡が国史跡の指定を受け、3館を「上之国館跡」として統合した名称に変更している。

史跡上之国館跡の史跡指定地の面積は、440,516.97㎡、各館跡では花沢館跡28,839.00㎡、洲崎館跡57,753.99㎡、勝山館跡353,923.98㎡となっている。

２．史跡上之国館跡の現況

花沢館跡は、蠣崎季繁の居館とされ、『新羅之記録』などには長禄元年（1457）のアイヌの蜂起の際、茂別館跡（北斗市）と共に廃城にならなかったとされる。平成16・17年度に実施された指定地内での遺構確認調査では、空堀・土塁・柵などの遺構を検出している。出土遺物は、青磁・白磁・染付・珠洲焼などの陶磁器、鉄製品・銅製品などが出土し、陶磁器の年代観から15世紀中頃に機能した館跡であることが判明した。

洲崎館跡は、長禄元年（1457）のアイヌとの戦いで功を挙げ、季繁の娘婿となった武田信広が天ノ川河口右岸に洲崎館を築いたとされる。同年、信広は蠣崎季繁の養女である下国安藤政季の娘と結婚し、天の川右岸に洲崎館を築城している。さらに、信広は寛正3（1462）年に砂館神社の前身である毘沙門金像を納めた堂を建立している。

平成11～13年に洲崎館跡の内外で分布調査を実施し、掘立柱及び竪穴建物跡などの遺構の他、青磁・白磁・染付・古瀬戸・珠洲・越前・信楽焼の陶磁器や金属製品、アイヌが使用した骨角器などもみつかっている。中世陶磁器の年代は、13世紀後半～16世紀初頭を示し、文献史料で示される築城年代より古い遺物が散見している。

勝山館跡は、花沢館、洲崎館に後出して松前氏の祖武田信広が、館神八幡宮を創祀した文明5年(1473)頃に築城し、16世紀末～17世紀初頭まで存続した山城である。

洲崎館跡の現況

発掘調査では、建物跡の遺構や中国や本州産の陶磁器を始めとして、金属製品、石製品、土製品、骨角器など約10万点を超える遺物が出土している。

平成12年度の発掘調査で和人の墓域とされてきた館後方の夷王山墳墓群からアイヌ墓が検出され、和人とアイヌの混住が想定されている。

また、平成20年度には、勝山館跡の出土遺物のうち921点が和人とアイヌ文化の関わりを考えるうえで欠かせない資料であることから、重要文化財に指定されている。

３．整備の状況

昭和52年度に『史跡上之国勝山館跡・花沢館跡保存管理計画書』が策定され、昭和54年度～63年の10ヵ年で両館跡調査整備に加え、洲崎館跡調査が計画されている。

3館の着手すべき順序は、勝山館の規模が大きいことに加え、毎年夷王山で祭事が行われるなど、地域になじみがあるという理由で勝山館跡から整備事業が進められている。

しかしながら、勝山館跡の発掘調査では予想をはるかに超える遺構・遺物がみつかり、当初の計画を大幅に上回る平成22年度までの31年間という長期に亘る整備事業が実施されている。

勝山館跡における整備基本計画は、昭和59年度、平成11年度に策定され、それに基づき整備が進められている。

勝山館跡の整備は、主郭部分の柵・橋・側溝・土塁、用水施設の井戸・樋を立体表示、主郭の建物跡・井戸・櫓・通路などを平面表示している。平面表示の箇所には、各遺構のＣＧをプリントした説明板を設置し、見学者が当時の景観をイメージできるよう配慮をしている。

勝山館跡の柵の復元

ガイダンス施設は、勝山館跡の史跡指定地内に旧笹浪住宅附属米・文庫蔵を平成14年度に復元し、続いて平成17年度に勝山館跡ガイダンス施設を建設している。それらの施設では、出土品、勝山館跡の模型1/200、墳墓のレプリカ、アイヌ関連の資料、紹介映像などを展示し、史跡の普及啓発を行っている。

旧笹浪家住宅附属米・文庫蔵

また、花沢館跡・洲崎館跡に至っては、具体的な整備が未着手の状態にあるが、平成23年3月に『史跡上之国館跡（花沢館跡　洲崎館跡　勝山館跡）保存管理計画書』が策定され、現在3館を一体とした保存管理を推進している。

４．維持管理

史跡上之国館跡では、教育委員会が委託先に発注して草刈り等を実施し、3 館を通年で見学できるように維持管理を図っている。近年では、勝山館跡において昭和60年代に実施した整備箇所が老朽化によって腐食したり、樹木の成長によって景観を阻害するなどの状況が散見しているため、平成30～31年度にかけて史跡上之国館跡（花沢館跡　勝山館跡）整備基本計画の策定を行っている。

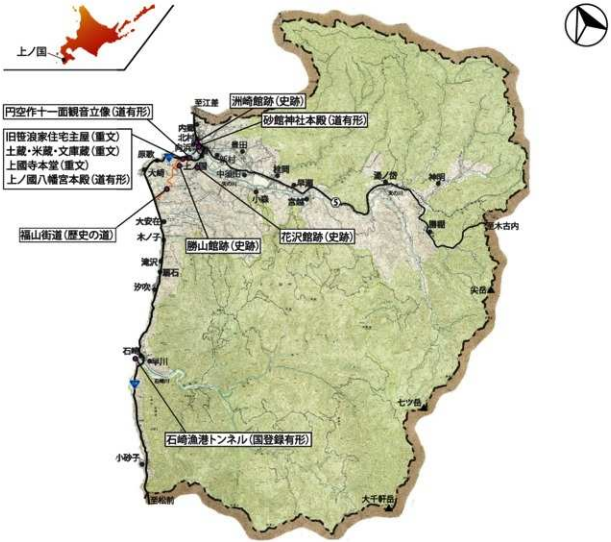
５．普及啓発

史跡では、観光や教育の分野などで普及啓発が行われている。観光では、町内の観光ガイド団体との連携によって、来訪者に対してガイドをし、食と体験を組み合わせたイベントなども実施している。

教育の分野では、小・中・高等学校のふるさと学習で、町内はもとより近隣町から生徒・児童が史跡を訪れている。平成29年度には、「上ノ国町歴史文化基本構想」が策定され、史跡の周辺環境と一体となった活用が求められている。

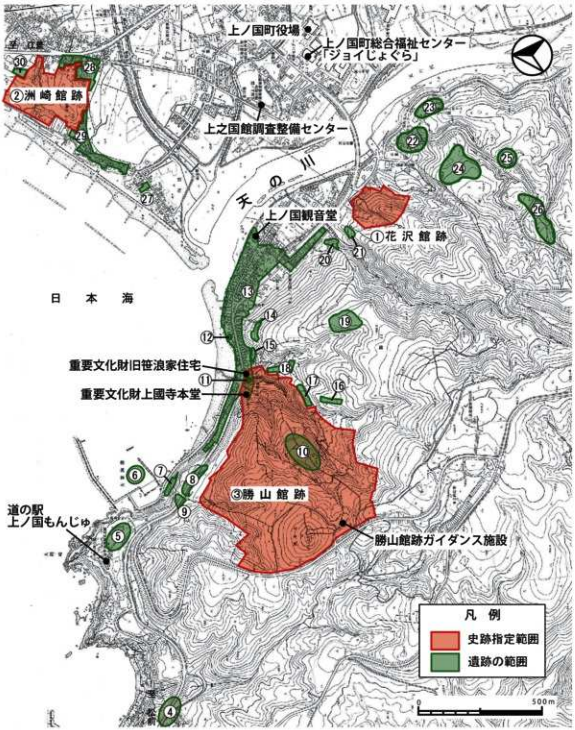
また、毎年7月の第一土曜日にはコシャマイン慰霊祭が勝山館跡の史跡指定範囲の隣接地において実施されている。この慰霊祭では、アイヌだけでなく和人を含めた慰霊が行われ、アイヌとの交流をする場としても勝山館跡が活用されている。

慰霊祭の様子



第１図　史跡上之国館跡及び国・道指定文化財　位置図

第２図　史跡上之国館跡位置図



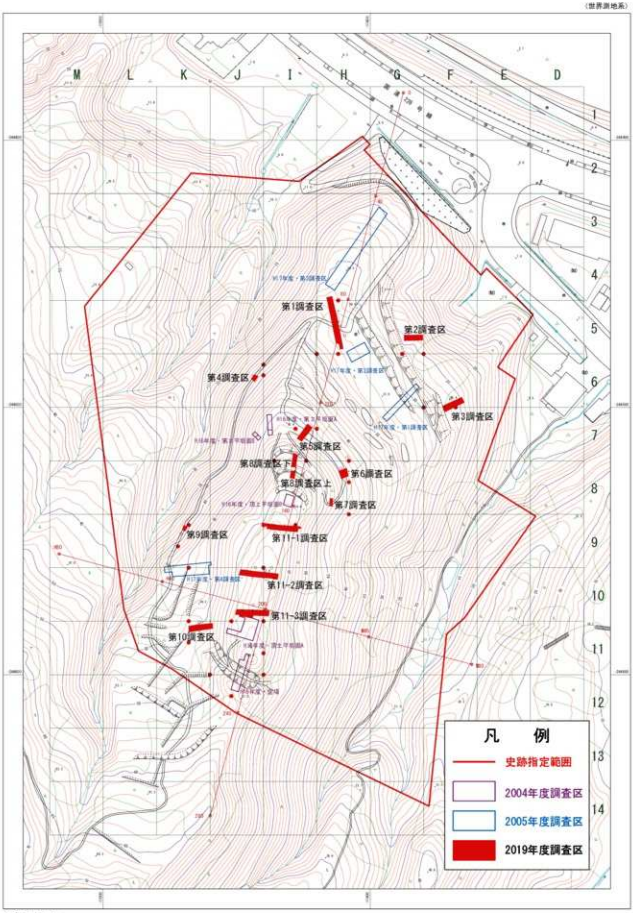
館跡

No.	名称	時代
①	花沢館跡	館の年代：室町（1432～1460年頃）
②	洲崎館跡	縄文、縄文、 館の年代：室町（1457～1500年初頃）
③	勝山館跡	縄文、 館の年代：室町（1470～1600年頃）

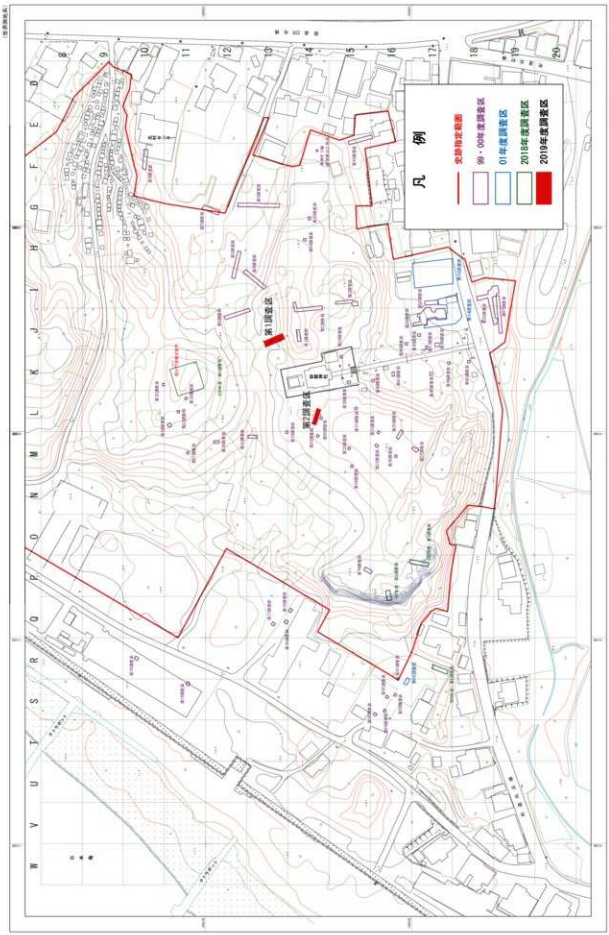
遺跡

No.	名称	時代	No.	名称	時代
④	原茶屋遺跡	縄文早期～晩期、鎌期・後期主体	⑭	ほど長根B遺跡	縄文、終縄文
⑤	大澗遺跡	縄文早期	⑮	部落島遺跡	縄文
⑥	上ノ国魚市遺跡	室町、江戸、江戸主体	⑯	お清沢A遺跡	縄文晩期、終縄文
⑦	大澗下遺跡	縄文	⑰	お清沢B遺跡	縄文中期～後期
⑧	四十九里沢A遺跡	谷石器、縄文早期～晩期、鎌文	⑱	大巳遺跡	縄文中期後半～後期初頭
⑨	四十九里沢B遺跡	縄文中期末～後期前葉	⑲	大巳B遺跡	縄文後期
⑩	勝山館遺跡	縄文前期後半～中期前半	⑳	小巳遺跡	縄文中期～後期
⑪	宮の沢遺跡	縄文晩期、終縄文	㉑	大巳沢A遺跡	縄文中期後半～後期初半
⑫	上ノ国遺跡	縄文晩期、鎌文、鎌倉	㉒	大巳沢B遺跡	縄文
⑬	上ノ国市街地遺跡	縄文前期～晩期（中期末～晩期主体）、終縄文、鎌文、室町、江戸	㉓	向浜A遺跡	江戸
			㉔	洲崎A遺跡	鎌文、室町、江戸
⑭	市街地後方A遺跡	縄文	㉕	洲崎B遺跡	室町、江戸
⑮	市街地後方B遺跡	室町	㉖	洲崎C遺跡	縄文晩期、終縄文、江戸
⑯	ほど長根A遺跡	縄文後期、江戸	㉗	北村遺跡	縄文中期～晩期、中期前半主体
⑰	鶴ノ沢遺跡	縄文中～後期、鎌文			

第３図　史跡上之国館跡及び周辺遺跡　位置図



第４図　花沢館跡　現況地形図・調査区位置図



第５図　洲崎館跡　現況地形図・調査区位置図

Ⅱ　遺構確認調査

１．調査に至る経緯

(1)花沢館跡

花沢館跡は、渡島半島南西部に分布していた「道南十二館」が所在する地域を松前、下之国、上之国の３地区に分け、それぞれに守護の役割を担わせたいわゆる「三守護体制」と呼ばれる上之国守護の拠点であり、道南十二館（通称）のうち最北端に位置する。上之国守護には、守護職に蠣崎季繁、その補佐役として武田信広が就いている。

花沢館跡は、天の川河口左岸に所在し、標高約 20～60 ㍍の丘陵上に立地する。館周辺の海浜部には、中世の集落跡と思われる上ノ国市街地遺跡（C-02-88）が分布している。

平成 16・17 年度の発掘調査では、主郭である頂上部の平坦面（64×20 ㍍）の西～南側に空堀・土塁が巡り、頂上部北側の平坦面に柵が確認されている。頂上部では、遺物が最も多く出土する地点であるものの建物跡が見つからないことから、見張りや戦闘時などの有事に立て籠もる臨時的な詰城と考えられた。館の下限年代は、出土遺物の青磁碗（雷文帯）・染付の出土から館主である蠣崎季繁が亡くなる寛正３（1462）年頃が想定され、「コシャマインの戦い」で陥落しなかったとする文献史料との年代観が一致している（『新羅之記録』所収）。

平成 30 年度より開始された花沢館跡の整備基本計画の策定では、史跡内の遺構の情報が不足していたことから、今年度より２か年の予定で遺構確認調査を実施している。

(2)洲崎館跡

洲崎館跡は、日本海に注ぐ天の川河口から約 800m北東方向に位置し、砂館神社の南～南東側の標高 1～7mの平坦地と砂館神社の南西側、東側、北側の海成段丘面を被覆する標高 11～15mの砂丘上に所在している。洲崎館周辺のボーリング調査の結果では、中世の段階で砂州の内側に本流から取り残された水深約 1m、幅 35～45mの支流が存在していたことが明らかとなっているため、当該域が十三湊遺跡（青森県五所川原市）同様、砂州を防波堤にした外海の影響を受けない川湊で交易活動をしていた景観であったことがイメージできる（上ノ国町教委 2011）。

平成 11～13（1999～2001）年に実施された発掘調査では、砂館神社参道東側の第 50・64 調査区を中心に中世の掘立柱建物跡、竪穴建物跡、土壙、柵などの遺構がみつかっている。その周辺の標高 1～7m の地点では中世の集落や港湾施設が想定される一方、空堀・土塁など城館に関連する遺構が検出されておらず、洲崎館の構造について不明な部分が多い現状にある（上ノ国町 2001・2002）。

そのため、平成 21（2009）年には現地踏査にて縄張調査を行い、土塁・空堀・郭（平坦面 1～3）・集落などの場所を想定した上で平成 30 年度より遺構確認を目的とした発掘調査を実施している。

２．調査位置

（１）花沢館跡

発掘調査区は、縄張調査で防御遺構や建物遺構が想定される箇所を中心にトレンチを 13 箇所設定した。

（２）洲崎館跡

発掘調査区は、縄張調査で防御遺構や建物遺構が想定される箇所を中心にトレンチを２箇所設定した。

３．調査方法

グリッドは、史跡指定地内外を網羅するように設定をしている。グリッドは大グリッドで 20m×20 mとし、東から西へ A、B、C…、北から南へ 1、2、3…とした。大グリッドは、4m×4mの小グリッド

を設定して左上より右下へ1～25に細分している。グリッドの表記は、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、16P3、8K25などとしている。

遺構の調査方法は、中世では平面プランを確認し、溝についてトレンチを設定してトレンチ内を完掘、柱穴について段下げ・半截、土壙について半截をした。近世以降の遺構に関しては、原則として中世の場合と同様であるが、その下位の中世の包含層及び遺構を確認することが困難な場合のみ完掘を行っている。遺構の実測は、全体の平面図・セクション図について、1／20、1／40の縮尺を用いた。遺構番号は、検出された順に遺構の種類別で番号を付した。遺物の取り上げは、近世以降（Ⅰ層、Ⅱ層）のものについてグリッド・層位ごとに取り上げた。

中世包含層（Ⅲ層）・遺構から出土した遺物については、出土地点、標高値を記録し、層位ごとに取り上げを行なった。

4. 調査体制

調査主体者　上ノ国町教育委員会　教育長　矢代　智樹

主管　上ノ国町教育委員会事務局　局　長　片石　　明

文化財グループ

主幹・学芸員　塚田直哉（担当者）、主査　熊谷友良、臨時学芸員　櫻井宏樹（調査員）

文化財作業員　川口泰子、鈴木千春、鈴木美喜、田畑　恵、目黒加奈子

調査指導

史跡上之国館跡整備検討委員会　臼杵勲（委員長）、田才雅彦、小岩直人、小林和貴、岩田靖

調査協力

札幌学院大学人文学部　臼杵勲（教授）、大塚宜明（講師）、荒山高太郎、佐々木雄太、石橋俊亮、竹本望海、長尾麗子

5. 調査経過

（1）花沢館跡

4月　機材等の準備を行った。

5月　保安林内の発掘調査許可申請やプレハブ・トイレ等の手配を行い、調査機材を搬入して第2調査区と第3調査区で草刈りや表土剥ぎ、遺構確認調査を行う。両調査区で腰曲輪及び切岸面を確認する。第1調査区と第5調査区、第6調査区の掘削を行う。

6月　第5調査区で空堀と土塁、第6調査区で土壙を確認する。第4・7調査区の掘削を行う。第7調査区では集石遺構を確認し、茶入が出土する。また、下旬には第8調査区（上、下）、第11-1調査区の掘削を行う。第8調査区（上側）では陶磁器や銅銭が出土し、同調査区（下側）では骨角器・茶臼が出土する。第11-1調査区で銅銭が集中して出土する。

7月　第11－2、3調査区の掘削を行う。上旬には連携協定を結んでいる札幌学院大学とともに調査を行っている。また、上ノ国高校、河北小学校、滝沢小学校の学生や児童が発掘体験を行う。第11－2、3調査区では共に焼土面を確認し、陶磁器、金属製品、石製品が出土した。

8月　第9調査区と第10調査区の掘削を行う。第9調査区では旧道を検出し、鉄鍋が出土している。第11-3調査区では土壙を確認し、足金物、小札などの遺物が出土した。

9月　第10調査区で空堀、土塁を確認している。第8調査区下で鐙座が出土し、第1調査区では切岸面を確認している。観光業者と連携した「道南十二館を巡るツアー」にて遺跡の現地見学会を実施する。

10月　完掘写真、平面図、セクション図など記録を行った調査区から埋め戻しを行う。

11 月　第 1 調査区のセクション図、平面図を作成した後、埋め戻しをして調査を終了する。

（2）洲崎館跡

4 月　機材等の準備を行った。

5 月　プレハブ・トイレ等の設置を行う。

7 月　発掘調査区の草刈りを行い、札幌学院大学で地中レーダー探査を行う。

8 月　第 1 調査区で表土剥ぎを行い、掘削を行う。

9 月　滝沢小学校の児童が体験発掘に訪れる。第 1 調査区で空堀・土塁が確認される。第 2 調査区の表土剥ぎをして掘削を行う。遺物は瓦が出土し、表土で陶磁器や銅銭を採集する。観光業者と連携した「道南十二館を巡るツアー」にて遺跡の現地見学会を実施する。

11 月　各調査区平面図、第 1 調査区のセクション図を作成した後、埋め戻しをして調査を終了する。

6．基本層序

（1）花沢館跡

Ⅰ 層：近現代に相当する堆積層である。

Ⅰa 層：表土層である。Ⅰb 層：耕作土や整地層である。Ⅰc 層：ロームを多く含んだ整地層である。

Ⅱ 層：近世に相当する堆積層である。下部には、1640 年代降灰の Ko-d（駒ケ岳 d）火山灰の層を含む。

Ⅱa 層：黒褐色及び暗褐色の腐植土層で、1640 年代降灰の Ko-d（駒ケ岳 d）火山灰の上層に位置する。

Ⅱb 層：黒褐色及び暗褐色の腐植土層で、1640 年代降灰の Ko-d（駒ケ岳 d）火山灰の下層に位置する。

Ⅲ 層：中世（15 世紀中頃）に相当する遺物包含層である。

Ⅳ 層：縄文～擦文時代に相当する堆積層で、2 層に細分される。

Ⅳa 層：黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する層である。10 世紀中葉に降灰の B-Tm（白頭山－苫小牧）火山灰層の上部に堆積する。

Ⅳb 層：10 世紀中葉に降灰の B-Tm（白頭山－苫小牧）火山灰層の下部に堆積する黒色の腐植土層で、擦文～縄文時代に相当する層である。

Ⅴ 層：ローム質で無遺物層の地山層である。

Ⅴa 層：ソフトローム層である。Ⅴb 層：ハードローム層である。

Ⅵ層：Ⅴ層下位の岩盤質の無遺物の地山層である。

（2）洲崎館跡

Ⅰ 層：近現代に相当する堆積層である。

Ⅱ 層：近世に相当する堆積層である。下部には、1640 年代降灰の Ko-d（駒ケ岳 d）火山灰の層を含む。

Ⅱa 層：黒褐色及び暗褐色の腐植土層で、1640 年代降灰の Ko-d（駒ケ岳 d）火山灰の上層に位置する。

Ⅱb 層：黒褐色及び暗褐色の腐植土層で、1640 年代降灰の Ko-d（駒ケ岳 d）火山灰の下層に位置する。

Ⅲ 層：中世（15 世紀中頃～16 世紀）に相当する堆積層である。

Ⅲa 層：飛砂による砂の堆積がみられる層である。

Ⅲb 層：Ⅲa 層の下に堆積する砂質土層で中世の遺物包含層である。

Ⅳ 層：縄文～擦文時代に相当する堆積層で、3 層に細分される。

Ⅳa 層：黒色の腐植土層で、擦文時代に相当する層である。10 世紀中葉に降灰の B-Tm（白頭山－苫小牧）火山灰層の上部に堆積する。

Ⅳb 層：10 世紀中葉に降灰の B-Tm（白頭山－苫小牧）火山灰層の下部に堆積する黒色の腐植土層で、擦文～縄文時代に相当する層である。

Ⅴ 層：無遺物の砂層である。

7. 花沢館跡の調査

第1調査区（第6図、PL1・2）

〔立地〕標高約31.8～32.4mの河岸段丘中腹の平坦地にあたる4H21・22、5H2・7・12・17・18・23グリッドに20m×2mの調査区を設定した。当調査区に隣接する平成17年度の第1調査区では、大正11年に削平した平坦面とその一段低い位置に中世の平坦面を確認していたため、今回でも中世の平坦面の検出が期待された。

〔層位〕近現代に相当するⅠa層（層厚約5cm）、大正時代に相当する盛土Ⅰb層（層厚約40cm）、近世に相当するⅡ層（層厚約20cm）、腰曲輪2とした平坦面の表土より1m下から1640年に降灰したKo-d層（層厚約5cm）、中世に相当するⅢ層（層厚10cm）が確認されている。

〔検出遺構〕腰曲輪3、腰曲輪4、溝1、溝2、溝3、旧道1、旧道2、小Pit、焼土を検出した。

〔出土遺物〕青磁碗（B2類）1点、石製品（中砥石）1点が出土している。

腰曲輪3

〔位置〕標高約32.0mの4H22、5H2・7・12・13・17・18・22・23グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北西から南東へ延び、溝1より南側では大正11年に行われた緩斜面の削平が見られる。規模は、残存する幅で約908cmを測る。平坦面中央部分で、直径約40cmの不整円形を呈する焼土範囲が確認されている。

〔堆積土〕大正11年の削平土によるハードローム層が堆積し、その下にⅢ層と思われる黒色土範囲が堆積する。全体的に非常に浅い堆積を呈し、溝1南側ではソフトローム層が検出されずに、表土層（Ⅰ層）下からⅤb層のハードロームが検出される。一方、溝1の北側ではソフトローム層やⅢ層が検出される。

　そのため、当平坦面では溝1北側で花沢館跡が機能した時代の平坦面であることを確認し、溝1南側までが大正11年の削平によって中世の包含層が消滅していることを把握することができた。

〔新旧関係〕溝1とほぼ同時期と思われる。　　〔出土遺物〕なし

腰曲輪4

〔位置〕腰曲輪3より一段低い標高約31.8mの平坦面の4H21・22、5H2グリッドに位置する。

〔形態・規模〕腰曲輪3より約50cm下の北東斜面側に広がる平坦地で、北側へ約2.7mの幅で確認されている。斜面直下には、溝状の窪み（溝2）が確認され、斜面の傾斜角は約50°である。その他、溝2に平行して約20cm離れた地点から溝3を検出している。その他、小Pitも確認された。

〔堆積土〕地山を削平し、その上に部分的にⅢ層、Ko-d火山灰層が自然堆積する。

　また、Ⅲ層中に10～20cm大の礫が混入している。大正11年に削平した土と思われるⅠb層及びⅠc層が厚く堆積している。

〔新旧関係〕溝2・3と同時期である。　　〔出土遺物〕なし

溝1

〔位置〕5H17グリッドの腰曲輪3に位置する。

〔形態・規模〕北西から北東方向に延び、長さは305cm（残存値）、幅52cm、深さ13cmを測る。

〔堆積土〕にぶい灰黄褐の土層の自然堆積を呈しており、3層に分層される。調査では、半截にて掘削を行っている。

〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

溝2

〔位置〕5H2・7グリッドの腰曲輪4の平坦面に位置する。

〔形態・規模〕腰曲輪3より腰曲輪4へ至る斜面に沿って北西から南東方向に延びる。長さは、約125cm（残存値）、幅31cm、深さ約16cmを測る。

〔堆積土〕黒色土層の自然堆積を呈している。

〔新旧関係〕切り合い関係から腰曲輪4と同時期と思われる。

〔出土遺物〕覆土中より青磁碗(B2類)1点が出土している。

溝3

〔位置〕5H2グリッドの腰曲輪4に位置する。

〔形態・規模〕北西から南東方向に延びており、長さは115cm（残存値）、幅20cm、深さ12cmを測る。

〔堆積土〕黒色土層の自然堆積を呈している。

〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

旧道1

〔位置〕平面では確認できなかったが、4H22グリッドに位置する。帯曲輪状に搦手へ至る旧道に続くと思われる。

〔形態・規模〕東西方向に延びており、幅38cm、深さ23cmを測る。

〔堆積土〕Ⅲ層で確認され、ロームブロック少量を含んだ褐色土層が堆積している。

〔新旧関係〕新旧関係から旧道2より新しい。　　〔出土遺物〕なし

旧道2

〔位置〕平面では確認できなかったが、4H22グリッドに位置する。曲輪状に搦手へ至る旧道に続くと思われる。

〔形態・規模〕東西方向に延びており、幅45cm、深さ20cmを測る。

〔堆積土〕Ⅲ層で確認され、褐色土層（層厚10cm）の上に黄褐色ローム層（層厚10cm）が堆積している。

〔新旧関係〕新旧関係から旧道1より古い。　　〔出土遺物〕なし

第2調査区（第7図、PL3・4　）

〔立地〕標高約24.0m前後の河岸段丘北東端の平坦地にあたる5G19・20グリッドに7m×2mの調査区を設定した。この調査区より一段高い（標高30m）平坦地では、平成17年度の調査で柵列が検出されている。

〔層位〕近現代に相当するⅠa層（5cm）、Ⅰb層（層厚5cm～45cm）、中世に相当するⅢ層（層厚15cm）10世紀頃に相当するⅣb層（層厚5cm）が堆積している。また、平坦面では、岩盤状の地山層であるⅥ層を確認している。

〔検出遺構〕腰曲輪5を検出した。　　〔出土遺物〕なし

腰曲輪5

〔位置〕5G19・20グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南北方向へ延び、幅は241cmを測る。西側斜面を削平し、腰曲輪を造成している。

〔堆積土〕腰曲輪東側の先端部では、近現代以降の耕作による造成土と思われるⅠb層が堆積し、腰曲輪5の造成時に発生した排土（A～D）が堆積している。このA～Dは、土塁基底部の堆積土とも考えられたが、明確な根拠を得ることができなかった。

　さらに、その下位には自然堆積による盛土層（ア～ウ）が堆積する。

〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

第3調査区（第7図、PL5）

〔立地〕第2調査区より東側の標高約25.0mの6F22・23・24、7F2・3グリッドに7m×2mの調査区を設定した。

〔層位〕近現代に相当するⅠa層（5cm）、大正時代に相当する盛土Ⅰb層（層厚5cm～30cm）、中世に相当するⅢ層（層厚5cm～13cm）、擦文期に相当するⅣa層、その下位で10世紀中葉に降灰のB-Tm火山灰を含むⅣb層（層厚5cm）が堆積している。

〔検出遺構〕腰曲輪5、溝状遺構を検出した。　〔出土遺物〕なし

腰曲輪5

〔位置〕6F22・23、7F2・3 グリッドに位置する。
〔形態・規模〕北西から南東方向に延び、幅は 342cm を測る。
〔堆積土〕西側斜面を削平し、腰曲輪と思われる平坦面を造成している。西側斜面直下には、腰曲輪を掘削した際の溝状の窪み（溝状遺構 1）がみられた。溝状の窪みに堆積した覆土上部には、1640 年に降灰した Ko-d 層、Ⅰb 層、その上にⅠa 層（層厚 5cm）が堆積している。
　また、腰曲輪東側の先端部では第 2 調査区同様に近現代以降の耕作による造成土と思われるⅠb 層が堆積し、下位にその下位には腰曲輪 1 の構築時に発生した排土（A～C）が堆積している。この盛土層は、土塁基底部の堆積土とも考えられたが、明確な根拠を得ることができなかった。
　さらに、その下位には自然堆積と思われる盛土層（ア～カ）が堆積する。
〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

溝状遺構

〔位置〕6F22・23、7F2・3 グリッドに位置する。
〔形態・規模〕北から南方向に延び、長さは 40cm（残存値）、幅は 174cm、深さ 26cm を測る。腰曲輪 5 を造成する際の掘削によって生じた溝状の窪みと思われる。
〔堆積土〕自然堆積を呈し、窪み状の地形に腐食土層が堆積し、その上面に Ko-d 火山灰層が堆積する。
〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

第 4 調査区（第 8 図、PL6）

〔立地〕標高約 33.2m の 6J9・10・15 グリッドに 2m×1.5m の調査区を設定している。本調査区は、最も広い大正 11 年に造成された平坦面から西側斜面を経由して搦め手まで続く幅 2m の細長い通路上に位置している。
〔層位〕近現代に相当するⅠ層（5～10cm）、近世に相当する層（層厚 5cm～30cm）、Ko-d 火山灰（層厚 5～20cm）、中世に相当する旧道（層厚 5～13cm）跡の堆積が確認されている。
〔検出遺構〕なし　　〔出土遺物〕なし

旧道

〔位置〕6J9・10・15 グリッドに位置する。
〔形態・規模〕北東から南西方向に延び、幅 85cm（残存値）、深さ 48cm を測る。旧道は、通行による往来で窪みが生じたと思われる。
〔堆積土〕斜面より崩落した土砂と思われる黒褐色土及び暗褐色土層がみられ、覆土上面に Ko-d 火山灰が堆積している。
〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

第 5 調査区（第 8 図、PL7・8）

〔立地〕標高約 45.4m の平坦地で 7I9・10・14・15・19 グリッドに 7m×2m の調査区を設定している。セクションポイント（A）より北側へ 2.2m の地点で最も標高が低くなり、3.7m 地点で最も高くなっている。本調査区よりも西側に設定した平成 16 年度の第 2 平坦面 A、B 調査区では、南側斜面直下で溝を検出している。
〔層位〕近現代に相当するⅠa 層（5cm）、大正時代に相当する耕作土・盛土Ⅰb 層（層厚 15cm）、擦文時代～縄文時代に相当するⅣ層（層厚 5cm）が堆積している。
　南側緩斜面をⅥ層地山面まで削平し、その際に排出した土砂が北側部分に堆積をしている。北側部分では、南側緩斜面を掘削した際の造成土（ア～ク）、土塁基底部と思われる層厚 57 cmの堆積（A～F）を検出している。
〔検出遺構〕空堀（大手）、土塁（大手）を検出した。
〔出土遺物〕鉄製品（鍋）2 点が出土した。

空堀（大手）

〔位置〕7I14・19 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北西から南東方向に延びており、長さは 90cm（残存値）、幅は 227cm、深さ 66cm を測る。堀底は、ややU字状を呈する。

〔堆積土〕6 層に分層され、底部には斜面崩落土と思われる玉砂利と 10～15 cm大の角礫を少量含み、その上には玉砂利を少量含んだにぶい黄褐色土層や暗褐色土層が堆積している。覆土最上部では、Ko-d 層下に黒色土層が堆積している。

〔新旧関係〕土塁と同時期と思われる。

〔出土遺物〕覆土中より、鉄製品（鍋）2 点が出土した。

土塁（大手）

〔位置〕空堀北側の 7I9・14 グリッドで土塁状の堆積を確認した。

〔形態・規模〕土塁基底部（A～D）とその北側部分に後世の削平によって崩落したと思われる土塁崩落土（a～b）の堆積を確認した。土塁基底部の幅は 279cm、高さ 62cm が残存する。土塁崩落土は、35 cmの厚さで堆積している。

〔堆積土〕土塁基底部は 4 層に分層され、玉砂利を少量含んだ褐色土層やにぶい黄褐色土が堆積し、人為的な堆積を呈する。土塁崩落土ではにぶい黄褐色土層が多くみられ、自然堆積をしている。

〔新旧関係〕空堀と同時期と思われる。　　〔出土遺物〕なし

第 6 調査区（第 9 図、PL9・10）

〔立地〕標高 44.5～45.0m の平坦地に位置し、8H3・8 グリッドに 3m×2.5m の調査区を設定している。

〔層位〕近現代に相当するⅠ層（5cm）、近世に相当するⅡ層（層厚 15cm）、中世に相当するⅢ層（層厚 10cm）が堆積している。

〔検出遺構〕土壙 1、土壙 2、土壙 3 を検出した。

〔出土遺物〕青磁碗（類不明）1 点、白磁丸皿（D 群）4 点、炭化物 1 点が出土している。また、土壙 1・2 周辺に角礫の集中部が確認された。

土壙 1

〔位置〕8H8 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸は 95cm、短軸は 47cm、深さ 25cm を測る。

〔堆積土〕下部に褐色土層、上部に黒色土層が自然堆積している。

〔新旧関係〕新旧関係から土壙 2 より新しい。　　〔出土遺物〕なし

土壙 2

〔位置〕8H3・8 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸は残存値 70cm、短軸は 90cm、深さは 20cm を測る。

〔堆積土〕大礫を少量含んだ黒褐色土層や暗褐色土層が堆積している。

〔新旧関係〕新旧関係から土壙 1 より古い。

〔出土遺物〕青磁碗（不明）1 点、10 cmを超える大きさの角礫が 6 点出土した。

土壙 3

〔位置〕8H8 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は調査区外へ延びるため不明であるが、長軸 48cm（残存値）、短軸 27cm、深さ 16cm を測る。

〔堆積土〕土質の柔らかい暗褐色土層が堆積している。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕取り上げを行わず現状保存した炭化物 1 点が出土している。

第７調査区（第９図、PL11）

〔立地〕標高 52.0～52.9m の腰曲輪２の 8H17・22 グリッドに 3m×１mの調査区を設定している。

〔層位〕近現代に相当するⅠ層（10cm～25cm）、近世に相当するⅡ層（層厚 10cm）、中世に相当するⅢ層（層厚 10～20cm）が堆積している。Ⅱ1 層及びⅡ2 層は通行による往来で窪みが生じたと考えられた。

〔検出遺構〕集石遺構、旧道跡（近世以降）

〔出土遺物〕石製品（茶臼）１点、古瀬戸（茶入）１点、石製品（砥石）２点、骨角器（中柄）１点が出土した。

集石遺構

〔位置〕8H17・22 に位置する。

〔形態・規模〕南から北へ傾斜する斜面上に分布し、長さは 108cm（残存値）、幅 246cm、深さ 10cm～30cm を測る。

〔堆積土〕Va 層が削平された 1～3 層以下は、褐色土層及び黒褐色土層が大量の礫とともに人為的に堆積している。堆積状況からは、一段高い頂上部から投げ込まれた可能性が想定されたが、当集石が形成された理由について次年度の調査で検討を行いたい。

　また、1～3 層が堆積する箇所は若干窪んでいる様子が確認されて旧道としての利用も考えられたが、調査区周辺の箇所で中世の旧道跡を検出できなかったため、今後の課題としたい。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕集石の間から古瀬戸鉄釉茶入（後期）１点、砥石（中砥）１点、骨角器（中柄）１点が出土した。礫は、角礫を中心として 5cm～30cm のものがみられ、被熱しているものも散見された。

第８調査区上（第 10 図、PL12～15）

〔立地〕標高 54.0m の頂上部直下の腰曲輪状の平坦地で、8I3・8 グリッドに調査区を設定している。第８調査区は、元より 7I23 から 8I8 までを予定していたが、斜面の傾斜が急であったため、史跡保存の観点から掘削を行わずに比高差 2.4m の平坦面を上下に分けて調査した。

〔層位〕近現代に相当するⅠ層（5cm）、近現代に相当する耕作土・盛土 Ib 層（層厚 10cm）、近世に相当するⅡ層（層厚 10cm）、中世に相当するⅢ層（層厚 10～25cm）が堆積している。

〔検出遺構〕腰曲輪５、柱穴状の黒褐色範囲（Pit1～3）を検出した。

〔出土遺物〕珠洲すり鉢（Ⅴ期）１点、青磁碗５点（B2 類２点、D2 類２点、不明１点）、白磁丸皿（D 群）5 点、銅銭 11 点、鉄製品（釘）１点、骨角器（中柄）２点、石製品４点（中砥石３点、仕上げ砥石１点）が出土した。

腰曲輪１

〔位置〕８I８グリッドに位置する。

〔形態・規模〕主郭より一段低い標高約 54m の地点で腰曲輪状に平坦面を造成している。腰曲輪は西から東方向に延び、長さ 167cm（残存値）、幅 201 cm（残存値）を測る。

〔堆積土〕腰曲輪の上面には、人為堆積を呈する玉砂利を多量に含んだ層位が確認される。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕珠洲すり鉢（Ⅴ期）１点、青磁碗５点（B2 類２点、D2 類２点、不明１点）、白磁丸皿（D 群）5 点、銅銭 11 点、鉄製品（釘）１点、骨角器（中柄）１点、石製品３点（中砥石２点、仕上げ砥石１点）が出土した。

Pit１～3

〔位置〕８I８グリッドに位置する。建物として柱筋が通るまで確認することができていないが、非常に浅い柱穴状の円形の穴を確認した。調査では、半截で確認をしている。

〔形態・規模〕Pit1 は、直径約 38cm、深さ 10 cmを測る。Pit2 は、直径約 28cm、深さ 16 cmを測る。Pit3 は、直径約 28cm、深さ 13 cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積と思われる黒褐色土がそれぞれ堆積していた。上面は、やや耕作によって削平されている可能性もある。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕Pit1で石製品（中砥石）1点、Pit2で骨角器（中柄）1点が出土している。

第8調査区下

〔立地〕標高51.6mの第7調査区より17m西側の7I23・24、8I3・4グリッドに調査区を設定している。
〔層位〕近現代に相当するⅠa層（10cm）、近現代に相当する耕作土・盛土Ⅰb層（層厚15cm）、近世に相当するⅡ層（層厚10cm）、1640年降灰のKo-d層、中世に相当するⅢ層（層厚5cm）が堆積している。
〔検出遺構〕腰曲輪2、焼土面・被熱面を検出した。その他、検出のみで掘削をしていないが、柱穴に似たプランであるPit4を確認している。
〔出土遺物〕青磁碗（不明）4点、白磁丸皿（D群）4点、珠洲すり鉢（Ⅴ期）15点、鉄製品（鍋）6点、銅製品（鐙座）3点、石製品（茶臼）1点、漆製品（塗膜片）1点、骨角器（中柄）54点、自然遺物（炭）1点が出土した。

腰曲輪2

〔位置〕8I3グリッドに位置する。
〔形態・規模〕Va層を削平して、腰曲輪状に平坦面を造成している。腰曲輪は西から東方向に延び、長さ75cm（残存値）、幅347cmを測る。
〔堆積土〕腰曲輪の上面には、人為堆積を呈する玉砂利を多量に含んだ層位が確認され、20～30cm大の角礫が多数散見される。
その下位には、被熱によって上面が硬化した厚さ5～10cmの黒色の焼土範囲（1～3）が広がっている。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕焼土面の直上から青磁碗（不明）4点、珠洲すり鉢（Ⅴ期）10点、白磁丸皿（D群）2点、石製品（茶臼）1点、自然遺物（炭）1点が出土している。焼土面からは、銅製品（鐙座）3点が被熱を受けた状態で出土している。

Pit4

〔位置〕8I3・4グリッドに位置する。調査では、検出のみ行っている。
〔形態・規模〕Pit4は、直径38×27cmを測る。
〔堆積土〕自然堆積と思われる黒褐色土がそれぞれ堆積していた。
〔新旧関係〕なし　〔出土遺物〕なし

第9調査区（第11図、PL16）

〔立地〕標高約38.7～39.3mの9K7グリッドに2m×1.5mの調査区を設定している。本調査区は、第4調査区同様、大手～搦手まで続く幅2mの細長い通路上に設定しているものである。
〔層位〕近現代に相当するⅠa層（10cm）、近現代に相当する耕作土・盛土Ⅰb層（層厚25cm）、近世に相当するⅡ層（層厚20cm）下位で中世の旧道と思われる堆積が確認されている。
〔検出遺構〕旧道跡を検出した。
〔出土遺物〕鉄鍋（内耳）1点が出土した。

旧道跡

〔位置〕9K7グリッドに位置する。
〔形態・規模〕南北方向に延び、幅71cmを測る。
〔堆積土〕通行で生じた堆積及び斜面からの崩落土と思われる暗褐色土層が堆積している。
〔新旧関係〕なし　〔出土遺物〕なし

第 10 調査区（第 11 図、PL17・18）

〔立地〕標高 50.4～52.0m の搦め手にあたる平坦地の 11J1、11K4・5 グリッドに 9m×2m の調査区を設定している。平成 16 年度及び 17 年度の搦め手に設定した調査区では、堀底が箱堀形状した空堀と土塁を検出している。

〔層位〕近現代に相当する Ⅰa 層（5cm）、近現代に相当する耕作土・盛土 Ib 層（10cm）、近世に相当する Ⅱ 層（層厚 15cm）、縄文時代から擦文時代に相当するⅣ層（層厚 15cm）が堆積している。

〔検出遺構〕空堀、土塁（基底部）、土塁崩落土を検出した。

〔出土遺物〕石製品（砥石）1 点、表土から銅銭（開元通寶）1 点が出土した。

空堀（搦手）

〔位置〕11J1、11K5 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南北方向に延び、長さは 70cm（残存値）、上面幅は 170cm、底面幅 90cm、深さ 52cm を測る。

〔堆積土〕5 層に分層される。人為的な堆積である暗褐色土層（5）が 30cm ほど厚く堆積し、その上位に玉砂利を多量に含んだ黒褐色及び黒色土（1～4）が自然堆積している。そして、黒褐色及び黒色土が窪んだ箇所に Ko-d 火山灰が堆積している。

角礫は、10～15 cmの大きさで人為的な堆積をする暗褐色土層上面で多く検出されている。

〔新旧関係〕土塁と同時期と思われる。

〔出土遺物〕石製品（仕上げ砥石）1 点が出土した。

土塁（搦手）

〔位置〕11K4・5 グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南北方向に延び、長さは残存値 70（残存値）cm、基底部幅 442cm、深さ 65cm を測る。

〔堆積土〕土塁基底部の褐色土層（a～e）と後世の撹乱によって生じた土塁崩落土（A～E）が確認されている。

〔新旧関係〕空堀と同時期と思われる。　　〔出土遺物〕なし

第 11 調査区

頂上部平坦面の第 11 調査区は、北側から第 11-1 調査区、第 11-2 調査区、第 11-3 調査区という形で枝番を付して設定している。

第 11－1 調査区（第 12 図、PL19・20）

〔立地〕標高 57～60m の頂上部平坦面で、主郭にあたる 9I11～13、9J15 グリッドに 14.5m×1.8m の調査区を設定している。

第 11－3 調査区と同様に中央部が馬の背状に高くなっており、その東西に地山(Ⅵ層)を人為的な掘削によって造成した平坦面（東側平坦面幅 4.0m、西側平坦面 2.3m）がみられる。

〔層位〕近現代に相当する Ⅰa 層（8cm）、近現代に相当する耕作土・盛土 Ib 層（層厚 15cm）、近世に相当する Ⅱ 層。1640 年に降灰の Ko-d 層（層厚 5cm）、中世に相当する Ⅲ 層（層厚 10～35cm）が堆積している。

〔検出遺構〕焼土面、Pit5

〔出土遺物〕青磁碗(D2 類)3 点、白磁 18 点（皿 6 点、坏 12 点）、古瀬戸灰釉卸皿（後Ⅱ期）4 点、珠洲すり鉢 21 点（Ⅴ期 15 点、Ⅵ期 6 点）、鉄製品 3 点（鍋 2 点、釘 1 点）、銅銭 22 点（開元通寶 3 点、咸平元寶 1 点、景德元寶 2 点、天禧通寶 1 点、天聖元寶 1 点、嘉祐元寶 1 点、熙寧元寶 2 点、元豊通寶 1 点、元祐通寶 1 点、至大通寶 1 点、洪武通寶 1 点、永楽通寶 5 点、判読不明 2 点）、骨角器（中柄）1 点、石製品 6 点（温石 1 点、砥石 5 点）、不明溶解物 1 点、自然遺物（不明骨 1 点）、石器 4 点（礫石器 2 点、剥片石器 2 点）が出土した。

焼土面

〔位置〕Ko-d 火山灰下位の 9I12 グリッドに位置する。
〔形態・規模〕南北方向に延び、長さ 135cm（残存値）、幅 185cm、深さ 5cm を測る。
〔堆積土〕被熱を受けることによって硬化した黒色土（下部は赤褐色土）が自然堆積している。その上面の黒色土範囲には、10～15 cm大の被熱礫の分布が確認された。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕珠洲すり鉢（Ⅴ期）8 点、青磁端反碗（D2 類）2 点、白磁八角坏（D 群）6 点、礫石器（磨製石斧）1 点、石製品（仕上げ砥石）3 点が出土している。

Pit5

〔位置〕Ko-d 火山灰下位の 9I12 グリッドに位置する。
〔形態・規模〕平面形は楕円形を呈し、長軸は 60cm、短軸は残存値 40cm、深さは 35cm を測る。
〔堆積土〕柱痕跡と思われる黒褐色土層（3）の上位に、20 cm大の角礫を含んだ黒色土、黒褐色土が自然堆積している。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕白磁丸皿（D 群）1 点、骨角器（中柄）1 点、不明溶解物 1 点が出土した。

第 11－2 調査区（第 13 図、PL21・22）

〔立地〕標高 56～57.5m の頂上部平坦面で、主郭部分にあたる 10I1、10J3～5 グリッドに 14.2m×1.9m の調査区を設定している。地形は、第 11－1・3 調査区と異なり、中央部が馬の背状に高くなっておらず、東側平坦面の延長と思われる幅 7.8m の平坦面、西側に斜面地となっている。

調査区周辺の地表面では、戦前及び戦中における耕作によって生じた畝の凹凸を確認することができる。

〔層位〕近現代に相当するⅠa 層（5cm）、近現代に相当する耕作土・盛土Ⅰb 層（層厚 10cm）、中世に相当するⅢ層（層厚 10～40cm）が堆積している。
〔検出遺構〕焼土面、攪乱（近現代）
〔出土遺物〕青磁碗 22 点（B2 類 6 点、C2 類 6 点、D2 類 8 点、不明 2 点）、青磁香炉 1 点、白磁 40 点（端反皿 8 点、丸皿 32 点）、珠洲すり鉢（Ⅴ期）7 点、鉄製品 5 点（鎌 3 点、鋏 1 点、火打ち金 1 点）、銅銭 2 点（元祐通寶 1 点、判読不明 1 点）、石製品（仕上げ砥石）3 点、礫石器 2 点（磨製石斧 1 点、擦り石 1 点）が出土した。

焼土面

〔位置〕東側平坦面の 10I1 グリッドに位置する。
〔形態・規模〕南北方向に延び、第 11－1・3 調査区に接続すると思われる。規模は、180cm（残存値）、幅 101cm、深さ 8cm を測る。
〔堆積土〕被熱によって硬化した黒褐色土層が自然堆積し、その上面に被熱礫が分布している。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕白磁端反皿（D 群）1 点が出土した。

第 11－3 調査区（第 13 図、PL23～25）

〔立地〕標高 57～58m の頂上平坦面の主郭にあたる 10I21、10J18～20・23～25 グリッドに 12.2m×1.8m の調査区を設定している。第 11－1 調査区と同様に中央部が馬の背状に高くなっており、その東西に地山(Ⅵ層)を人為的な掘削によって造成した平坦面（東側 389cm、西側 308cm）がみられる。

調査区は、平成 16 年度の頂上平坦面 A 調査区と一部重複しており、過年度の調査では溝や土壙が検出されている。

〔層位〕近現代に相当するⅠa 層（7cm）、近現代に相当する耕作土・盛土Ⅰb 層（層厚 10～20cm）、近世に相当するⅡ層（10cm）、中世に相当するⅢ層（層厚 5cm）が堆積している。

〔検出遺構〕東側平坦面では焼土面、Pit6・7を検出した。
西側平坦面では、土壙4、溝4、Pit8～10を検出した。
〔出土遺物〕青磁碗34点(B2類11点、B3類7点、C2類9点、D2類1点、E類1点、不明5点)、白磁(D群)8点(腰折皿3点、不明皿1点、八角坏4点)、珠洲すり鉢12点(Ⅴ期8点、Ⅵ期4点)、鉄製品22点(鎹1点、釘1点、小札9点、鍋11点)、銅製品2点(足金物1点、鐔付金具1点)、銅銭17点(天聖元寳1点、皇宋通寳1点、熙寧元寳4点、元豊通寳1点、元祐通寳1点、紹聖元寳1点、聖宋元寳1点、政和通寳2点、永楽通寳3点、判読不明2点)、石製品3点(茶臼1点、砥石2点)、骨角器3点(中柄)、自然遺物2点(炭)が出土した。

焼土面

〔位置〕東側平坦面の10I21、10J25グリッドに位置する。
〔形態・規模〕南北方向に延び、第11－1・2調査区に接続すると思われる。長さは残存値で137cm、幅99cm、深さ8cmを測り、北壁に入りかかるところで湾曲する。
〔堆積土〕2層に分層され、玉砂利を多量に含み、被熱によって硬化した黒色土が自然堆積している。また、その上面には、幅272cmで黒褐色土(i～l)が自然堆積している。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕鉄製品6点(小札4点、鎹1点、鉄鍋1点)、銅製品(足金物)1点、銅銭(天聖元寳)1点、骨角器(中柄)1点、石製品(仕上げ砥石)1点、自然遺物(炭化物)2点が出土した。

溝4

〔位置〕西側平坦面の10J19・24グリッドに位置する。平成16年度に検出した04溝1に延長すると思われる。
〔形態・規模〕南北方向に延び、調査区北側壁面付近で西側へ屈曲する。長さは288cm(残存値)、幅は43cm、深さ12cmを測る。
〔堆積土〕12層に分層され、玉砂利を多く含んだ人為的堆積を呈する。下部に黄褐色土、上部に灰褐色、黒褐色土が堆積している。その上面には、幅308cmで黒褐色土(a～h)が自然堆積している。
〔新旧関係〕位置関係からPit6・7と同時期の可能性も考えられる。
〔出土遺物〕青磁碗2点(D2類1点、不明1点)、白磁腰折皿(D群)3点、石製品(中砥石)1点、珠洲すり鉢(Ⅴ期)1点、鉄製品4点(小札3点、鍋1点)が出土している。

土壙4

〔位置〕調査区西側の10J23グリッドに位置する。
〔形態・規模〕平面形は調査区外へ延びるため不明であるが、長軸は残存値148cm(残存値)、短軸は126cm(残存値)、深さは26cmを測る。
〔堆積土〕5層に分層され、暗褐色土が人為的に堆積している。下部の暗褐色土層には玉砂利を多く含む。
〔新旧関係〕なし
〔出土遺物〕珠洲擂鉢(Ⅴ期)4点、青磁碗17点(B2類:端反2点・直口6点、B3類7点、C2類4点、不明1点)、白磁八角坏(D群)1点、鉄製品(釘)1点、銅銭13点(皇宋通寳1点、熙寧元寳4点、元豊通寳1点、元祐通寳1点、紹聖元寳1点、聖宋元寳1点、政和通寳2点、永楽通寳3点、判読不明2点)、骨角器(中柄)2点、が出土した。

Pit6・7

〔位置〕東側平坦面の10J25グリッドに位置し、ℓ層が堆積する急斜面に沿うような形で分布している。やや直径が小さいが柱穴状の円形の穴を確認した。
〔形態・規模〕Pit6は、直径約19cm、深さ10cmを測る。Pit7は、直径約20cm、深さ10cmを測る。Pit6とPit7の間隔は、約160cm(5.3尺)である。
〔堆積土〕暗褐色土の堆積を確認した。

〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

Pit8～10

〔位置〕西側平坦面の10J24グリッドに位置し、溝4に沿うような形で分布している。建物として柱筋が通るまで確認することができていないが、やや直径が小さいが柱穴状の円形の穴を確認した。

〔形態・規模〕Pit8は、直径約26cm、深さ8cmを測る。Pit9は、直径約25cmで検出のみ行っている。Pit10は、直径約25cmで検出のみを行っている。Pit8とPit9の間隔は、約170cm（5.6尺）である。

〔堆積土〕暗褐色土の堆積を確認した。

〔新旧関係〕なし　　〔出土遺物〕なし

表1 第1調査区 東西南壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	1a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	
整地層	1b1	10YR5/6	明黄褐色ローム	ややハード	
	1b2	10YR5/6	明黄褐色ローム	ややハード	
	1b3	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややハード	ロームブロック少量
	1b4	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード	
近現代整地層	1c1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	
	1c2	10YR4/6	黄褐色シルト	ややハード	ロームブロック少量
	2a1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	
	2a2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	
	2a3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	
	2a4	10YR2/3	黒褐色シルト	ややソフト	ロームブロック少量
	2a5	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	
	2a6	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード	
	2a7	10YR2/1	黒色シルト	ややハード	
	2a8	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	5cm大礫、ロームブロック混入
	V a	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややハード	
溝1	1	10YR5/4	にぶい灰黄褐色	ややハード	
	2	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	ややハード	
	3	10YR5/3	にぶい灰黄褐色	ややソフト	
溝2	あ	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト	
溝3	1	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややソフト	
旧道1	A	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	ロームブロック少量
旧道2	a	10YR5/6	黄褐色ローム	ややハード	
	b	10YR4/6	褐色シルト	ややハード	

表2 第2調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	1a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量
耕作土	1b	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	鍬	10YR4/4	褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	IVb	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト	
	V a	10YR6/2	灰黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径10%
	VI	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%、5cm大礫5%
耕面	1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	ロームブロック20%
鋤床土	2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	ロームブロック15%
	3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	ロームブロック5%、土師粒15%
整面輪	A	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径10%
造成土	B	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	C	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	炭粒径10%、5cm大礫5%
盛土	ア	10YR5/2	灰黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	イ	10YR5/3	暗褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	ウ	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややハード	炭粒径5%

表3 第3調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	1a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量
耕作土	1b	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	鍬1	10YR6/6	明黄褐色	ハード	焼土層
	鍬2	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	
	鍬3	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	5cm大礫5%
	IVa	10YR2/1	黒色シルト	ソフト	炭粒5%
	IVb	10YR3/3	暗褐色シルト	ソフト	B-Tm混入
	V a	10YR6/2	灰黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径10%
溝状遺構	1	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト	5cm大礫5%
	2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	5cm大礫5%
	3	10YR3/4	暗褐色シルト	ややハード	
整面輪	A	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ハード	炭粒径15%、5cm大礫5%
造成土	B	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ハード	炭粒径10%、5cm大礫15%
	C	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ハード	炭粒径15%、5cm大礫5%
盛土	ア	10YR3/3	暗褐色シルト	ソフト	炭粒径5%
	イ	10YR5/3	暗褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	ウ	10YR4/4	褐色シルト	ややソフト	
	エ	10YR5/4	褐色シルト	ややソフト	
	オ	10YR3/3	暗褐色シルト	ソフト	
	カ	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ソフト	粘土ブロック10%

表4 第4調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	1a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量
	II	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	
旧道跡	1	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト	
	2	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト	
	V a	10YR4/6	褐色シルト	ソフト	

表5 第5調査区 南北西壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	1a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量
耕作土	1b1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	
	1b2	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト	
	IVb	10YR2/3	黒褐色シルト	ややソフト	
	VI	10YR4/4	褐色	ハード	
整地（大手）	1	10YR2/1	黒色シルト	ソフト	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径15%
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	4	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	炭粒径5%
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	炭粒径20%、5cm大礫5%
土塁	a	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ハード	5cm大礫20%
地業土	b	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ハード	5cm大礫20%
土塁（大手）	A	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ハード	5cm大礫20%
	B	10YR4/6	褐色シルト	ややハード	炭粒径10%
	C	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	炭粒径15%
	D	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	炭粒径5%
盛土	ア	10YR3/4	暗褐色シルト	ややソフト	
	イ	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード	
	ウ	10YR3/4	暗褐色シルト	ソフト	

	エ	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややソフト		
	オ	10YR3/4	暗褐色シルト	ややソフト		5cm大礫5%
	カ	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	キ	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		5cm大礫5%
	ク	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		玉砂利5%

表6 第6調査区 南北東壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
	Ⅱ1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利少量	
	Ⅱ3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ4	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ5	10YR3/1	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利少量	
	Va1	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ソフト		
	Va2	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややソフト		
	Va3	10YR5/6	黄褐色ローム	ややハード		
	Vb	10YR5/6	黄褐色ローム	ハード		

表7 第6調査区 東西南壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
	Ⅱ1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利少量	
	Ⅱ3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利少量	
	Va	10YR5/6	黄褐色ローム	ややソフト		
土壌3	1	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト		

表8 第6調査区 東西南壁セクション(土壌1・2) 土層観察表（B～B'）

土壌1	1	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	2	10YR2/1	黒色シルト	ややハード	3cm大礫少量	
	3	10YR2/1	黒色シルト	ややハード		
	4	10YR4/4	褐色シルト	ややハード		
	5	10YR4/4	褐色シルト	ややソフト		
	6	10YR4/6	褐色シルト	ややソフト		
土壌2	a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	b	10YR3/4	暗褐色シルト	ややハード		
	c	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード		
	d	10YR2/3	黒褐色シルト	ややハード	5cm大礫少量	

表9 第7調査区 東西土壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
	Ⅱ1	10YR2/3	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ2	10YR2/3	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ3	10YR2/3	黒褐色シルト	ややハード	礫多量	
	Va	10YR5/6	褐色シルト	ややハード		
旧道跡（土壌10層）	あ	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	い	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
旧道？	1	10YR4/4	褐色シルト	ややハード		
	2	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	礫少量	
	3	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	礫多量	

表10 第8調査区 南北西壁セクション 土層観察表（A～A'）B～B'）

表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
耕作土	Ⅰb1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ2	10YR4/6	褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ3	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ4	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ5	10YR3/4	暗褐色シルト	ややソフト		
	礫1	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	礫2	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	礫3	10YR5/6	黄褐色シルト	ソフト		
	礫4	10YR4/4	褐色シルト	ソフト		
	礫5	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	礫6	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	礫7	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	Va	7.5YR4/3	褐色シルト	ソフト		
整備輪	A	10YR5/6	黄褐色シルト	ややソフト		
耕平土	B	10YR5/6	黄褐色シルト	ややハード		
埋定した	あ	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	い	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	う	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	え	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	お	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	か	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	き	10YR6/4	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	く	10YR6/4	にぶい黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	け	7.5YR3/4	暗褐色シルト	ややハード		
地土面	1	10YR2/1	黒色シルト	ハード		
	2	10YR2/1	黒色シルト	ややハード		
	3	7.5YR3/4	暗褐色シルト	ややソフト		

表11 第9調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
耕作土	Ⅰb1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	礫軽少量	
	Ⅱ1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ3	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト		
	Vb	10YR4/6	褐色ローム	ややハード		
旧道跡	1	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード		
	2	10YR2/3	暗褐色シルト	ややソフト		

表12 第10調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
耕作土	Ⅰb1	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ハード	礫多量	
	Ⅰb2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ2	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト		
	Ⅱ3	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト		
	Ⅱ4	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト		
	Ⅳ1	10YR2/2	黒褐色シルト	ソフト		
	Ⅳ2	10YR3/4	暗褐色シルト	ソフト		
	Va	10YR3/4	暗褐色シルト	ハード	玉砂利多量	
	Ⅵ	10YR3/4	暗褐色シルト	ややハード	礫多量	
空堀（掘手）	1	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト	礫多量	
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	3	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	4	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト		
	5	10YR3/4	暗褐色シルト	ややハード	礫多量	
土塁（掘手）	a	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	礫多量	
	b	10YR4/4	褐色シルト	ややソフト		
	c	10YR4/4	褐色シルト	ソフト		
	d	10YR4/4	褐色シルト	ソフト		
	e	10YR4/4	褐色シルト	ややハード		
土塁（曲輪土）	A	10YR4/4	褐色シルト	ハード	礫多量	
	B	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	C	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	D	10YR4/4	褐色シルト	ややハード		
	E	10YR4/6	褐色シルト	ややソフト		

表13 第11-1調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

表土	Ⅰa	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
耕作土	Ⅰb1	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb2	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅰb4	10YR3/1	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb5	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅰb6	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	礫1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	礫2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	礫3	10YR4/4	褐色シルト	ややハード		
	礫4	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	礫5	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややハード		
	礫6	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	礫7	10YR3/4	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	礫8	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	礫9	10YR3/3	暗褐色シルト	ややハード		
	礫10	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	礫11	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	礫12	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	礫13	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややハード		
	礫14	10YR5/2	灰黄褐色シルト	ややソフト		
	Vb	10YR4/6	褐色シルト	ハード	玉砂利多量	
地土面	1	10YR2/1	黒色シルト	ハード	下部赤褐色	

表14 第11-1調査区 東西北壁セクション(Pit 5) 土層観察表（B～B'）

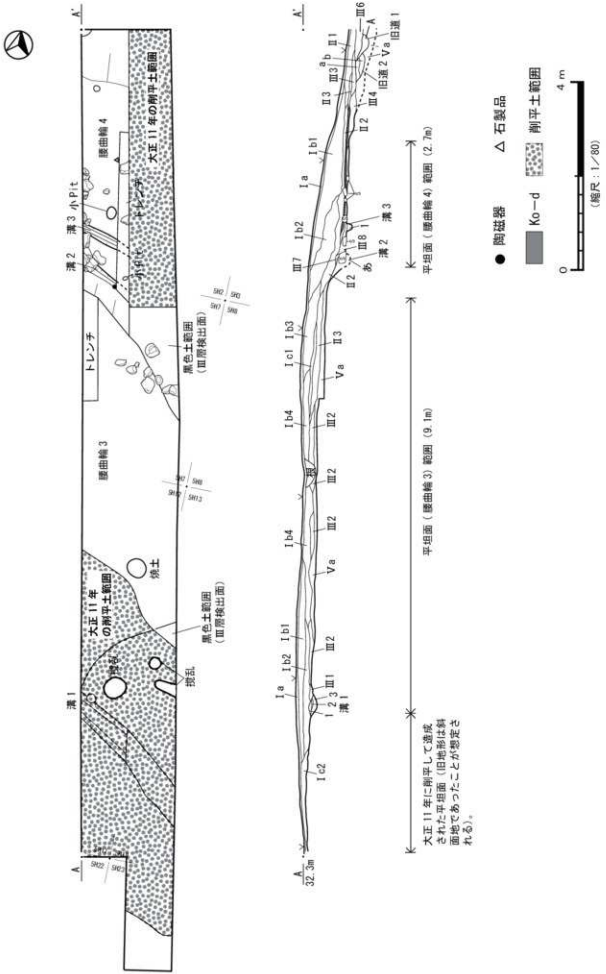
表土	Ⅰa	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
耕作土	Ⅰb	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	礫1	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード	Ku-ブロック	
	礫2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Vb	10YR4/6	褐色シルト	ハード	玉砂利多量	
Pit5	1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	20cm大礫	
	2	10YR2/1	黒色シルト	ソフト	20cm大礫	
	3	10YR3/1	黒褐色シルト	ソフト		

表15 第11-2調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

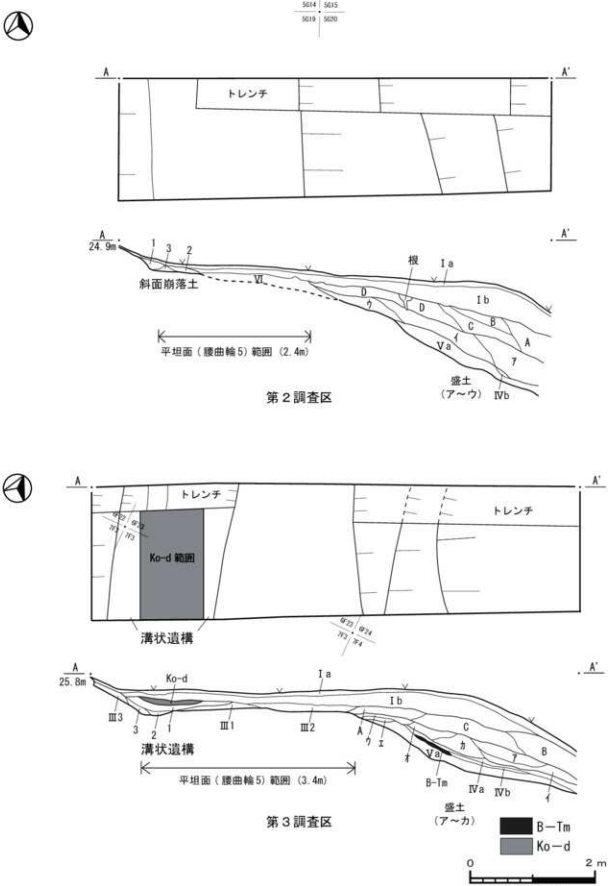
表土	Ⅰa	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
耕作土	Ⅰb1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅰb2	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	Ku-ブロック	
	Ⅱ1	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	Ⅱ2	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ3	10YR2/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ4	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	Ⅱ5	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト	地土粒少量	
	Ⅱ6	10YR4/2	黒褐色シルト	ややハード		
	礫1	10YR2/1	黒褐色シルト	ややハード		
	礫2	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	礫3	10YR4/4	褐色シルト	ややハード		
	礫4	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Va	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード		
	Vb	10YR4/6	褐色シルト	ハード		
地土面	1	10YR2/1	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	

表16 第11-3調査区 東西北壁セクション 土層観察表（A～A'）

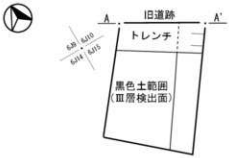
表土	Ⅰa	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	草根多量	
耕作土	Ⅰb	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ1	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利少量	
	Ⅱ2	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード		
	Ⅱ3	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト		
土塁4	1	10YR3/1	黒褐色シルト	ややハード		
	2	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト		
	3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	4	10YR3/3	黒褐色シルト	ややソフト		
	5	10YR2/3	黒褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
黒褐色土範囲	a	10YR3/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	b	10YR4/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	c	10YR4/2	灰黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	d	10YR5/2	にぶい黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	e	10YR4/4	褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	f	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	g	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ソフト	玉砂利多量	
	h	10YR5/3	にぶい黄褐色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	i	10YR2/2	黒褐色シルト	ややソフト		
	j	10YR2/2	黒褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
	k	10YR3/1	黒褐色シルト	ややソフト		
	l	10YR5/4	にぶい黄褐色シルト	ややハード	玉砂利多量	
地土面	あ	10YR2/1	黒色シルト	ややソフト	玉砂利多量	
	い	10YR2/1	黒色シルト	ハード	玉砂利多量	



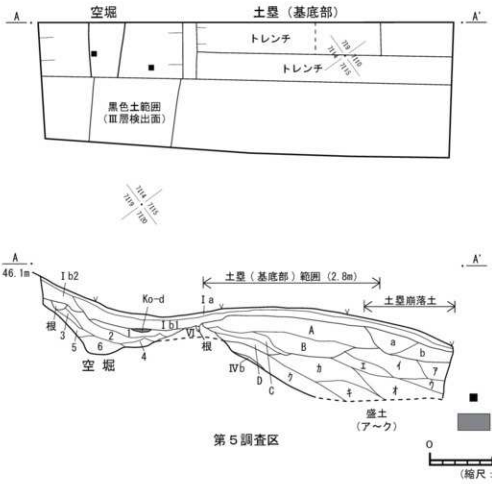
第６図　第１調査区　平面図・セクション図



第７図　第２・３調査区　平面図・セクション図

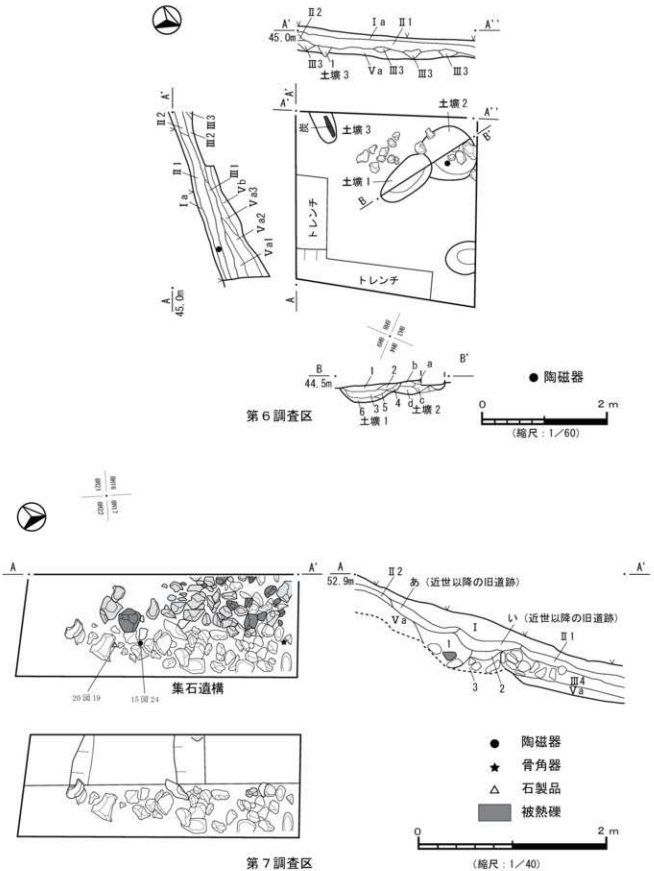


第４調査区

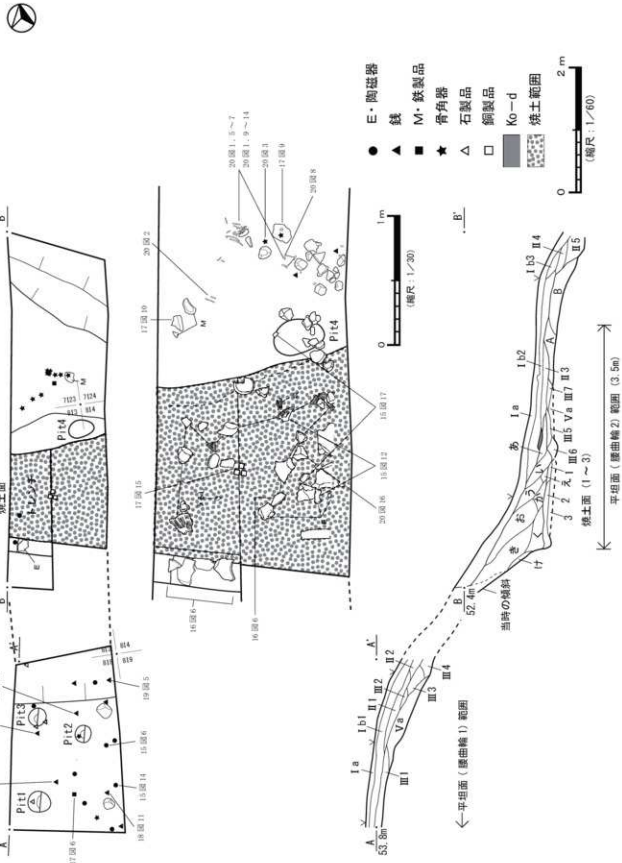


第５調査区

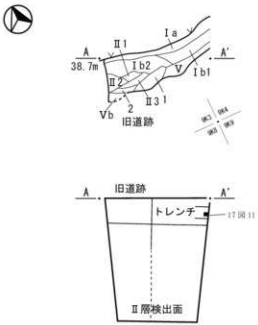
第８図　第４・５調査区　平面図・セクション図



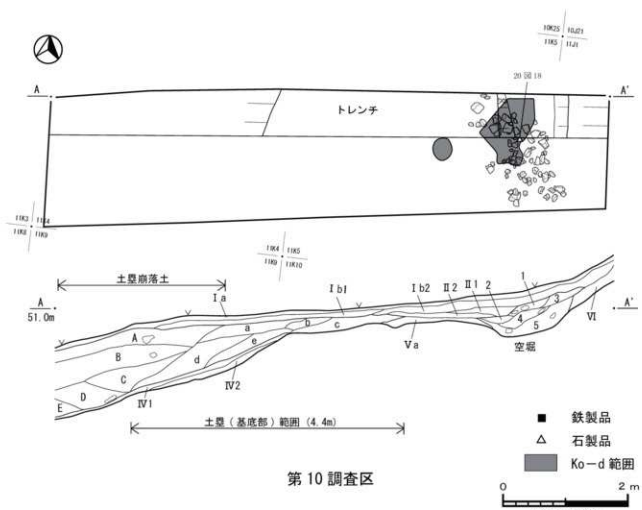
第９図　第６・７調査区　平面図・集石遺構・セクション図



第 10 図　第８調査区　平面図・セクション図

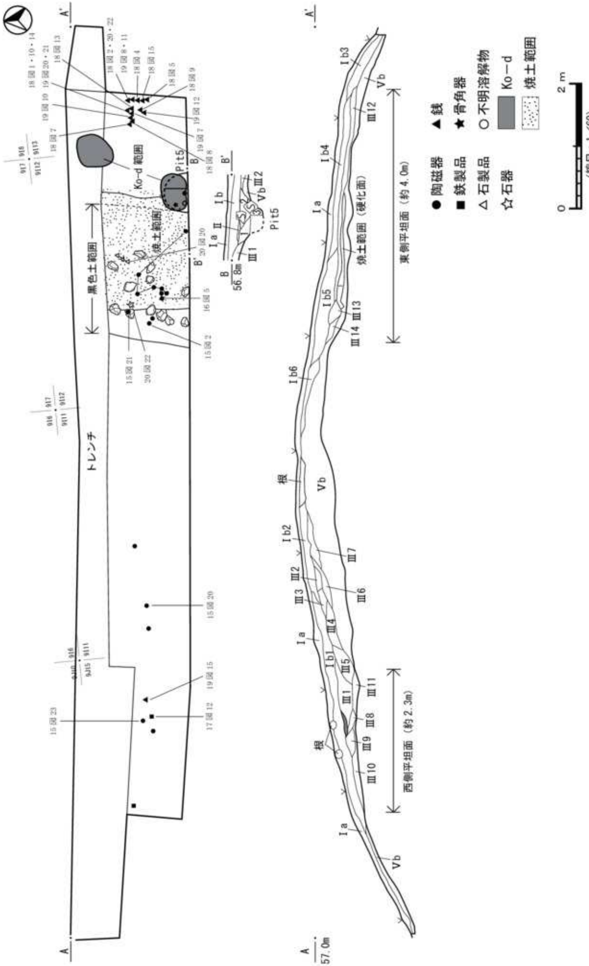


第９調査区

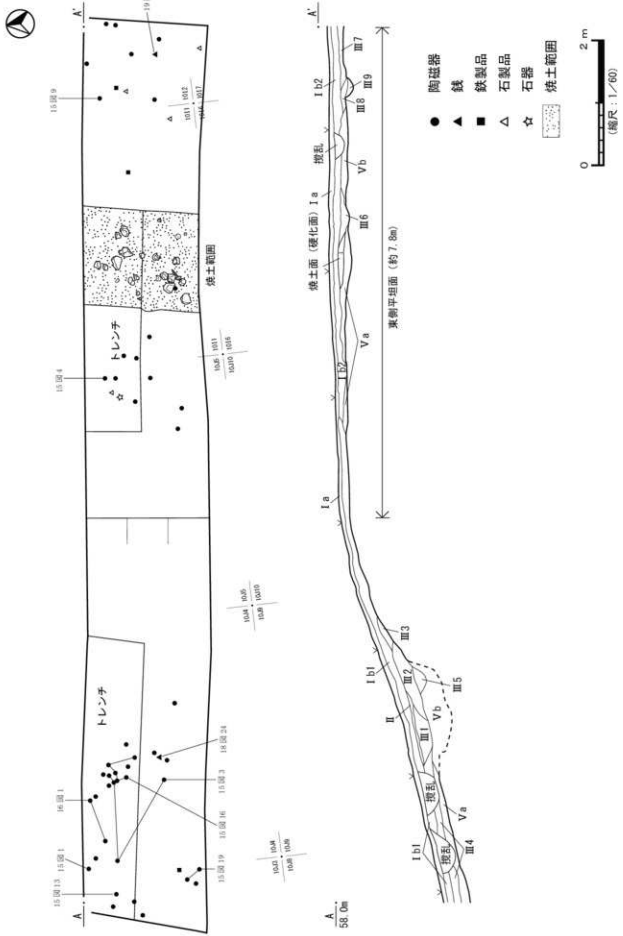


第 10 調査区

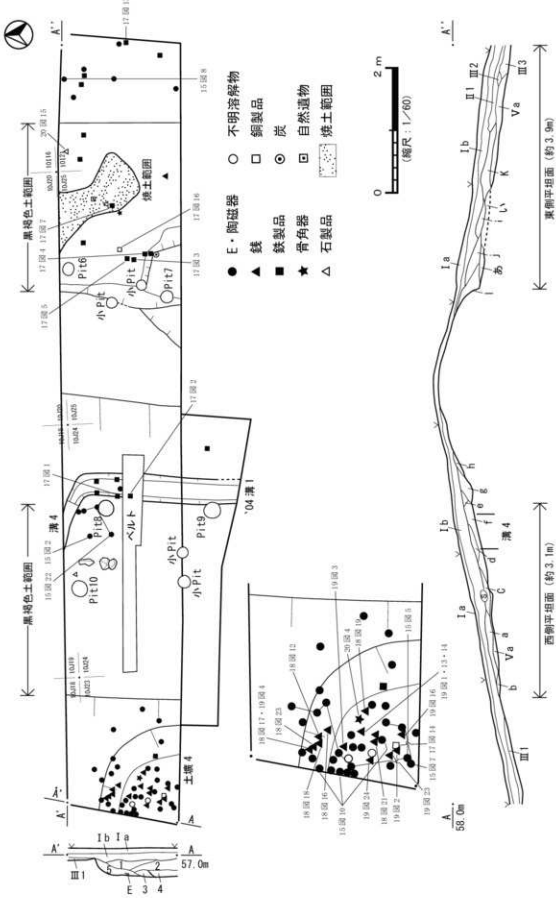
第 11 図　第 9・10 調査区　平面図・セクション図



第 12 図　第 11-1 調査区　平面図・セクション図



第13図　第11-2調査区　平面図・セクション図



第14図　第11-3調査区　平面図・セクション図

8. 花沢館跡の出土遺物

遺物は、総計 408 点で室町時代を中心として縄文時代のものが少量出土している（表 17～23）。

各時代における遺物の内訳は、花沢館跡に伴う遺物が 402 点（中世陶磁器 211 点、鉄製品 40 点、銅製品 58 点、石製品 22 点、骨角器 61 点、木製品 1 点、不明溶解物 3 点、自然遺物 6 点）、縄文時代の遺物が 6 点（剥片石器 2 点、礫石器 4 点）である。

a. 陶磁器（15・16 図、PL30・31）

陶磁器は合計 211 点が確認され、そのほとんどが頂上部の第 11-1・2・3 調査区（171 点）からの出土で、その次に頂上部直下の第 8 調査区（34 点）からの出土である。遺物の集計は、破片数について接合前の破片数で行い、個体数の算出については口縁部計測法を用いた。なお、口縁部計測法は宇野隆夫氏の方法を参考としている（宇野 1981・1992）。

遺物の年代は、花沢館跡が機能した 15 世紀中頃を示すものが大半を占める。また、1442 年や 1457 年頃の廃絶と考えられる十三湊遺跡や志苔館跡で確認されない青磁雷文帯碗（C2 類）・無文直口碗（E 類）が出土している。

貿易陶磁は、青磁、白磁で構成され、破片数 150 点（10.47 個体）となり、破片数では全体の 71.1%、個体数では 83.9%を占める。国産陶磁は、古瀬戸、珠洲で構成され、破片数 61 点（2.02 個体）となり、破片数では全体の 28.9%、個体数では 16.1%を占める。

碗皿と比較して大型の擂鉢の 1 個体あたりの破片数が多いため、全体の割合としては個体数が実際の値を示していることが考えられるので個体数の数値を参考にすると、貿易陶磁の割合が 8 割以上を占めていることがわかり、国産陶磁の割合が少ない傾向にある。以下、種類別に出土遺物の概要を述べる。

青磁（15 図－1～12、PL29）

器種は、青磁の碗と香炉が出土している。碗は、70 点（B2 類 20 点、B3 類 7 点、C2 類 16 点、D2 類 14 点、E 類 1 点、不明 12 点）が確認される。B2 類は、口縁形態が直口するものと端反りの 2 形態がみられる。15 図-11・12 では、見込みに茶筅刷りと思われる擦痕がみられる。また、D2 類を除く製品では 2 次被熱がみられる。香炉は、筒型と思われる個体が 1 点出土している。

白磁（15 図－13～22、PL30-1～10）

器種は、D 群の皿と坏が出土している。皿は、63 点（腰折皿 3 点、端反皿 8 点、丸皿 51 点、不明 1 点）が確認される。坏は、16 点（八角坏）が確認される。端反皿・丸皿などで 2 次被熱がみられる。

古瀬戸（15 図－23・24、PL30-11・12）

器種は、鉄釉肩衝茶入（後期）1 点、灰釉卸皿（後Ⅰ Ⅱ期）4 点が出土している。卸皿は、全て被熱を受けている。

珠洲（16 図、PL8-1、PL30－13～16、PL31）

器種は、すり鉢（Ⅴ期 46 点、Ⅵ期 10 点）が 56 点出土している。口縁は、櫛目波状文が施されるものが多く、無文のものも少量みられる。

b. 鉄製品（17 図-1～13、PL32）

器種は、釘 3 点、小札 9 点、鍋 24 点、鎹 2 点、火打ち金 1 点、不明 1 点が出土している。小札は、黒漆が一部付着している。鉄鍋は、内耳口縁、一文字湯口、丸形湯口の破片が出土している。

c. 銅製品（17 図-14～16～19 図、PL33～PL35-3）

器種は、鐶付金具 1 点、足金物 1 点、鐶座 3 点、銭 53 点が確認される。鐶付金具や鐶座は、製品不明であるが把手としての用途の金具と思われる。足金物は、鞘に装着する刀装具の一部である。

銭は 53 点確認され、そのうち 41 点が頂上部の第 11 調査区から出土している。また、そのうち 35 点が 2 次被熱を受けている。銭種は 19 種が確認され、最新銭が永楽通寶（明、初鋳年 1408 年）となっている。

d. 石製品（20 図-15～21、PL36-1～7）

器種は、茶臼3点、砥石18点、温石1点が出土している。砥石は、中砥・仕上げ砥の2種類がみられた。仕上げ砥は、泥岩質の幅約3cm（1寸）で鋸状の切り出し痕がみられる。温石は、鋸状の切り出し痕がみられ、0.9㎝の穿孔が施される。

e. 骨角器（20図-1～14、PL35-4～17）

第8調査区下で多く出土しており、器種は中柄55点と鏃6点が確認される。鹿角製と海獣骨製がみられ、2次被熱を受けている破片が19点確認される。

f. 木製品

第8調査区下で被熱を受けた漆の塗膜片1点がみつかっている。

g. 自然遺物

不明獣骨1点、礫2点、炭化物3点が出土している。

h. 石器（20図－22、PL36－8）

剥片石器（剥片）2点、礫石器4点（擦り石2点、磨製石斧2点）が出土している。

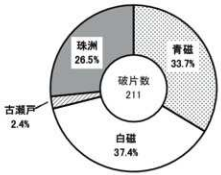
表17　花沢館跡　出土遺物集計表

時期	種類	器種	破片数	被熱
中世（花沢館跡併行期）	陶磁器	舶載（青磁・白磁）	150	31
		国産（瀬戸・珠洲）	61	8
	小計		211	39
	鉄製品	釘（和釘1）	3	0
		小札	9	0
		鍋	24	0
		鏡	2	0
		火打ち金	1	0
		不明	1	0
	小計		40	0
	銅製品	銭（内訳表18）	53	35
		鐙付金具	1	0
		足金物	1	0
		鐙座	3	1
	小計		58	36
	石製品	砥石	18	1
		温石	1	0
		茶臼	3	0
	小計		22	1
	骨角器	中柄	55	13
		鏃	6	6
	小計		61	19
	自然遺物	動物骨	1	0
		礫	2	2
		炭	3	0
	小計		6	2
	木製品	漆	1	1
	不明溶解物	不明	3	0
	小計		4	1
合計			402	98

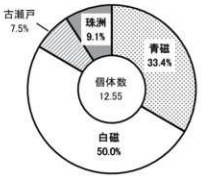
縄文時	石器	剥片石器	2	1
		礫石器	4	1
	合計		6	2
総計			408	100

表18　花沢館跡　出土銭貨集計表

No.	銭名	初鋳年	破片数	被熱
1	開元通寶	唐621年	4	2
2	咸平元寶	北宋998年	1	1
3	景德元寶	北宋1004年	3	0
4	天禧通寶	北宋1017年	1	0
5	天聖元寶	北宋1023年	2	2
6	皇宋通寶	北宋1038年	2	1
7	嘉祐元寶	北宋1056年	1	0
8	熙寧元寶	北宋1068年	6	6
9	元豊通寶	北宋1078年	2	2
10	元祐通寶	北宋1086年	3	2
11	紹聖元寶	北宋1094年	1	1
12	聖宋元寶	北宋1101年	1	0
13	政和通寶	北宋1111年	2	2
14	淳熙元寶	南宋1127年	1	0
15	紹熙元寶	南宋1190年	1	0
16	至大通寶	元1310年	1	1
17	洪武通寶	明1368年	1	1
18	永乗通寶	明1408年	9	4
19	判読不明		11	10
合計			53	35



グラフ1　中世陶磁器　種類別組成比(破片数)



グラフ2　中世陶磁器　種類別組成比(個体数)

表19　中世陶磁器　種類・器種別組成表(全体)

種類	器種	破片数		個体数	
青磁	碗	70		4.03	
	香炉	1		0.16	
小計		71	[33.7%]	4.19	[33.4%]
白磁	皿	63		4.76	
	坏	16		1.52	
小計		79	[37.4%]	6.28	[50.0%]
古瀬戸	茶入	1		0.48	
	皿	4		0.46	
小計		5	[2.4%]	0.94	[7.5%]
珠洲	すり鉢	56	[26.5%]	1.14	[9.1%]
合計		211	[100.0%]	12.55	[100.0%]

表20　青磁　器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数		個体数		被熱
青磁	碗	B2類(端反)	5	[7.1%]	0.56	[13.9%]	2
		B2類(直口)	15	[21.4%]	0.85	[21.1%]	12
		B3類(直口)	7	[10.0%]	0.47	[11.7%]	2
		C2類(雷文)	16	[22.9%]	0.98	[24.3%]	4
		D2類(端反)	14	[20.0%]	1.14	[28.3%]	0
		E類(無文直口)	1	[1.4%]	0.03	[0.7%]	1
		不明	12	[17.1%]	0.00	[0.0%]	2
	小計		70	[100.0%]	4.03	[100.0%]	23
	香炉	筒型	1		0.16		0
合計			71		4.19		23

表21　白磁　器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数		個体数		被熱
白磁	皿	D群(腰折)	3	[4.8%]	0.61	[12.8%]	0
		D群(端反)	8	[11.4%]	0.71	[17.6%]	3
		D群(丸皿)	51	[72.9%]	3.44	[85.4%]	4
		D群(不明)	1	[1.4%]	0.00	[0.0%]	1
	小計		63	[100.0%]	4.76	[100.0%]	8
	坏	D群(八角)	16		1.52		0
合計			79		6.28		8

表22　古瀬戸　器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数		個体数		被熱
古瀬戸	茶入	後期(胴衝)	1	[20.0%]	0.48	[51.1%]	0
	皿	後Ⅰ Ⅱ期(卸皿)	4	[80.0%]	0.46	[48.9%]	4
合計			5	[100.0%]	0.94	[100.0%]	4

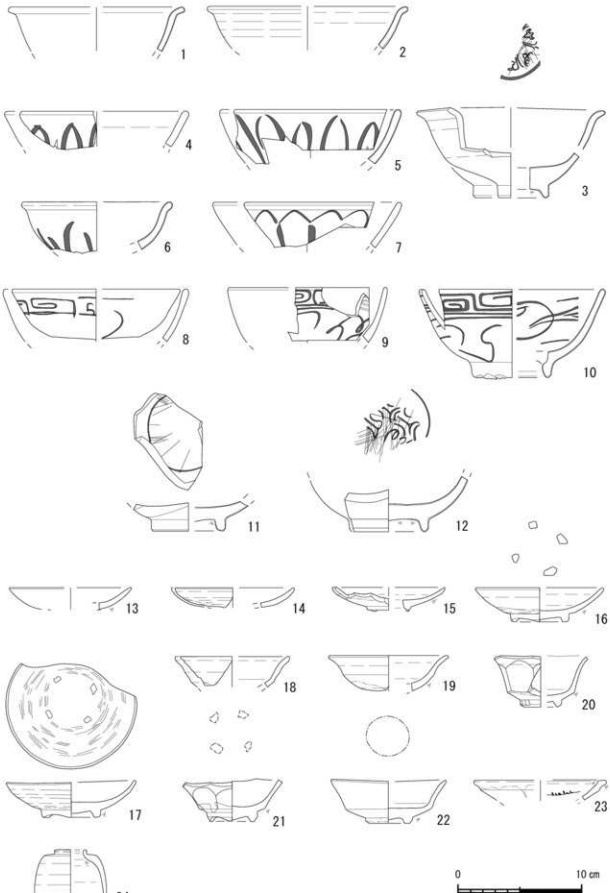
表23　珠洲　器種・分類別組成表

種類	器種	分類	破片数		個体数		被熱
珠洲	すり鉢	Ⅴ期	46	[82.1%]	1.04	[110.6%]	4
		Ⅵ期	10	[17.9%]	0.10	[10.6%]	0
合計			56	[100.0%]	1.14	[100.0%]	4

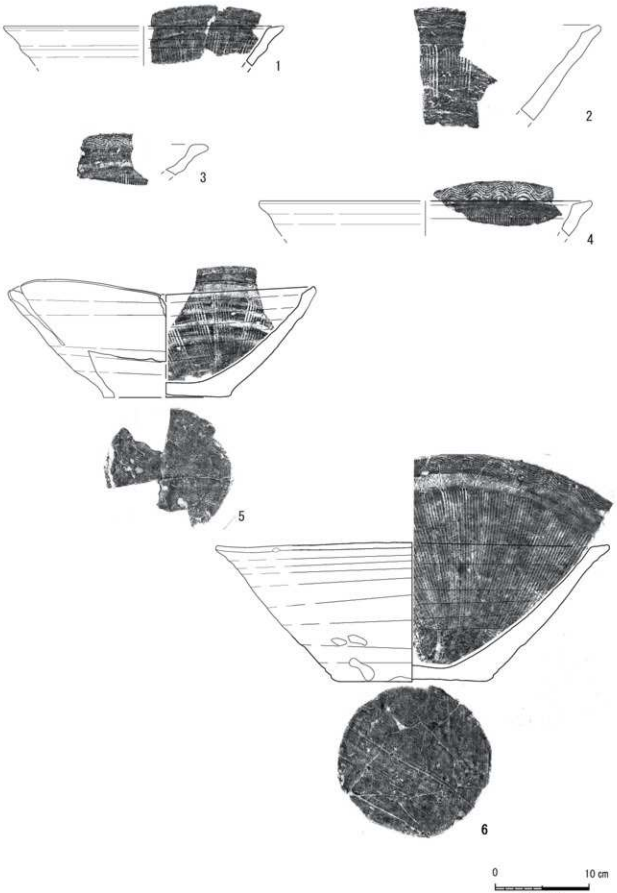
表24 花沢館跡 出土遺物観察表

図版No.	PLNo.	調査区	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
159f1	PL29-1	11－2	10j4		表(斜面)	青磁	碗	端反碗 D2類 口径cm14.0	129
159f2	PL29-2	11－3	10j24	溝4	覆土	青磁	碗	端反碗 D2類 口径cm16.0	綜合No.28
159f3	PL29-3	11－2	10j4		表(斜面)	青磁	碗	端反碗 D2類 内面－見込印花、茶筅刷り 口径15.0cm×器高7.2cm×底径5.8cm	綜合No.24
159f4	PL29-4	11－2	10j5		Ⅲ	青磁	碗	直口碗 B2類 外面－胴部へラ描連弁 口径14.8cm	綜合No.13
159f5	PL29-5	11－3	10j23		Ⅲ	青磁	碗	B2類 2次被熱 外面－胴部へラ描連弁 口径14.4cm	綜合No.34
159f6	PL29-6	8.E	8H		Ⅲ	青磁	碗	端反碗 B2類 2次被熱 外面－胴部へラ描連弁 口径12.0cm	綜合No.8
159f7	PL29-7	11－3	10j23	土壙4	覆土	青磁	碗	直口碗 B3類 2次被熱 外面－胴部へラ描連弁 口径15.6cm	綜合No.37
159f8	PL29-8	11－3	10j21		Ⅲ	青磁	碗	直口碗 C2類 外面－口縁雷文、内面－胴部劃花文 口径14.6cm	綜合No.49
159f9	PL29-9	11－2	10j2		Ⅲ	青磁	碗	直口碗 C2類 外面－口縁雷文、胴部連弁 内面－口縁劃花文 口径12.8cm	綜合No.17
159f10	PL29-10	11－3	10j23	土壙4	覆土	青磁	碗	直口碗 C2類 2次被熱 外面－口縁雷文、胴部連弁 内面－口縁、胴部劃花文 口径14.8cm×器高7.0cm×底径5.8cm	綜合No.35
159f11	PL29-11	11－3東側拡張			Ⅰ	青磁	碗	鉢不明 内面－見込茶筅刷り 底径5.8cm	374
159f12	PL29-12	8.F	8f3		東(崩土上)	青磁	碗	鉢不明 内面－見込印花、茶筅刷り 底径5.9cm	綜合No.41
159f13	PL30-1	11－2	10j3		表(斜面)	白磁	皿	丸皿 D群 外面－胴部以下露胎 口径9.8cm	132
159f14	PL30-2	8.E	8f8		Ⅲ	白磁	皿	丸皿 D群 外面－胴部以下露胎 口径9.8cm	21
159f15	PL30-3	6	8H		Ⅰ	白磁	皿	丸皿 D群 外面－胴部以下露胎、切高台 口径9.0cm×器高2.0cm×底径3.8cm	綜合No.1
159f16	PL30-4	11－2	10j4		表(斜面)	白磁	皿	丸皿 D群 外面－胴部以下露胎、切高台 内面－見込植目4つ 口径10.2cm×器高2.6cm×底径4.5cm	綜合No.19
159f17	PL30-5	8.F	8f3		東(崩土上)	白磁	皿	丸皿 D群 2次被熱 外面－胴部以下露胎、切高台4、高台被熱 内面－植目4つ使用痕 口径10.3cm×器高3.9cm×底径4.7cm	綜合No.39
159f18	PL30-6	11－2	10i10j		表土	白磁	皿	端反皿 D群 外面－胴部以下露胎 口径9.2cm	63
159f19	PL30-7	11－2	10j3		表(斜面)	白磁	皿	端反皿 D群 2次被熱 外面－胴部以下露胎 口径9.6cm	綜合No.26
159f20	PL30-8	11－1	9f11		表	白磁	坏	八角坏 D群 外面－胴部以下露胎 平高台 口径7.4cm×器高4.1cm×底径2.6cm	綜合No.12
159f21	PL30-9	11－1	9f12		東(崩土上)	白磁	坏	八角坏 D群 外面－胴部以下露胎、切高台4 内面－見込植目4つ 口径7.9cm×器高3.3cm×底径3.6cm	綜合No.29
159f22	PL30-10	11－3	10j24	溝4	覆土	白磁	皿	鏡形皿 D群 外面－胴部以下露胎 擦痕による釉剥ぎ 口径9.2cm×器高3.4cm×底径3.2cm	綜合No.18
159f23	PL30-11	11－1	9j15		東	古瀬戸灰釉	皿	卸皿 後Ⅱ期 2次被熱 外面－口縁以下露胎 内面－口縁以下露胎 口径10.6cm	綜合No.23
159f24	PL30-12	7	8f417	集石		古瀬戸鉄釉	茶入	後期 刷毛 内面－口縁以下露胎 口径2.6cm	35
161f1	PL30-13	11－2	10j4		表(斜面)	珠洲	擂鉢	V期 口径29.6cm	綜合No.35
161f2	PL30-14	11－1	9f9j		Ⅱ	珠洲	擂鉢	VI期 内面－口縁櫛目波状文、胴部卸目10条	綜合No.11
163f3	PL30-15	11－3東側拡張			表土	珠洲	擂鉢	V期 内面－口縁櫛目波状文、胴部卸目11条	371
163f4	PL30-16	8.E	8f		Ⅲ	珠洲	擂鉢	V期 内面－口縁櫛目波状文 口径35.0cm	15
165f5	PL31-1	11－1	9f12		Ⅲ	珠洲	擂鉢	V期 口径32.7cm×器高12.5cm×底径13.5cm	綜合No.10
166f6	PL31-2	8.F	8f3		黄色	珠洲	擂鉢	V期 2次被熱 内面－口縁櫛目波状文、胴部卸目8条 口径40.5cm×器高17.0cm×底径16.3cm	綜合No.27
178f1	PL32-1	11－3	10j24	溝4	覆土	鉄製品	小札	漆付着 長36.68cm×幅2.55cm×厚50.29cm 重量11.4g	179
178f2	PL32-2	11－3	10j24		Ⅲ	鉄製品	小札	漆付着 長35.89cm×幅2.50cm×厚50.21cm 重量9.1g	379
178f3	PL32-3	11－3	10j25		東(崩土上)	鉄製品	小札	漆付着 長36.71cm×幅2.67cm×厚50.19cm 重量9.5g	355
178f4	PL32-4	11－3	10j25		東(崩土上)	鉄製品	小札	漆付着 長36.80cm×幅2.75cm×厚50.19cm 重量10.7g	綜合No.33
178f5	PL32-5	11－3	10j25		東(崩土上)	鉄製品	小札	漆付着 長36.67cm×幅2.65cm×厚50.18cm 重量12.7g	359
178f6	PL32-6	8.E	8f8		Ⅲ	鉄製品	和釘	長54.1cm×幅0.50cm×厚50.39cm 重量3.50g	32
178f7	PL32-7	11－3	10j25		東(崩土上)	鉄製品	鎧	長57.2cm×幅1.80cm×厚50.39cm 重量22.7g	358
178f8	PL32-8	11－2	10i10j		排土	鉄製品	火打ち金	長53.5cm×幅9.75cm×厚50.28cm 重量33.0g	383
178f9	PL32-9	8.F	7f23		ko-d下砂利層	鉄製品	鍋	丸型 鼎口 長32(11.30)cm×幅(17.45)cm×厚50.49cm 重量251.4g	8-1
178f10	PL32-10	8.F	8f3		東(崩土上)	鉄製品	鍋	口径33.1cm 長3(8.10)cm×幅(12.00)cm×厚50.50cm 重量139.0g	146
178f11	PL32-11	9	9K8		Ⅰ	鉄製品	鍋	内耳鍋 長35.70cm×幅2.78cm×厚50.36cm 重量6.98g	330
178f12	PL32-12	11－1	9j15		Ⅲ	鉄製品	鍋	一文字鼎口 長5(4.78)cm×幅(7.45)cm×厚51.2cm 重量96.3g	257
178f13	PL32-13	11－3	10j21		Ⅲ	鉄製品	鍋	長57.01cm×幅(7.01)cm×厚50.56cm 重量62.0g	326
183f1	PL33-1	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	開元通寶 唐621年 2次被熱 銭緡、纖維付着 外径25.04mm×内径21.26mm×厚51.43mm 量目2.96g (No.77,78,79,80と5枚重ね)	69
183f2	PL33-2	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	開元通寶 唐621年 2次被熱 背上月 外径25.23mm×内径20.40mm×厚51.46mm 量目3.41g	75
183f3	PL33-3	10	11j11K		表土	銅製品	銭	開元通寶 唐621年 外径23.32mm×内径19.79mm×厚51.37mm 量目2.68g	174
183f4	PL33-4	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	開元通寶 唐621年 外径22.74mm×内径18.69mm×厚51.21mm 量目2.47g	343
183f5	PL33-5	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	咸平元寶 北宋998年 2次被熱 外径24.14mm×内径18.72mm×厚51.17mm 量目3.13g	187
183f6	PL33-6	8.E	8f		Ⅱ	銅製品	銭	景德元寶 北宋1004年 行書 外径24.70mm×内径18.43mm×厚51.53mm 量目3.00g	18
183f7	PL33-7	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	景德元寶 北宋1004年 外径24.55mm×内径18.41mm×厚51.54mm 量目3.61g	64
183f8	PL33-8	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	景德元寶 北宋1004年 外径24.60mm×内径17.49mm×厚51.29mm 量目3.40g	65
183f9	PL33-9	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	天禧通寶 北宋1017年 2次被熱 厚51.10mm 量目1.53g	189
183f10	PL33-10	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	天聖元寶 北宋1023年 2次被熱 真書 銭緡、纖維付着 外径25.77mm×内径21.60mm×厚51.41mm 量目3.41g (No.69,78,79,80と5枚重ね)	77
183f11	PL33-11	8.E	8f8		Ⅲ	銅製品	銭	皇宋通寶 北宋1038年 2次被熱 真書 外径24.08mm×厚51.15mm 量目1.12g	26
186f12	PL33-12	11－3	10j23	土壙4	覆土	銅製品	銭	皇宋通寶 北宋1038年 篆書 外径24.6mm×内径20.40mm×厚51.20mm 量目3.35g	352
186f13	PL33-13	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	嘉祐元寶 北宋1056年 篆書 外径23.44mm×内径18.06mm×厚51.26mm 量目3.28g	68
186f14	PL33-14	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	熙寧元寶 北宋1068年 2次被熱 真書 (No.69,77,79,80と5枚重ね) 銭緡、纖維付着 外径24.56mm×内径19.78mm×厚51.31mm 量目3.26g	78
186f15	PL33-15	11－1	9f13		Ⅲ	銅製品	銭	熙寧元寶 北宋1068年 2次被熱 篆書 外径24.61mm×内径20.55mm×厚51.38mm 量目3.39g	186

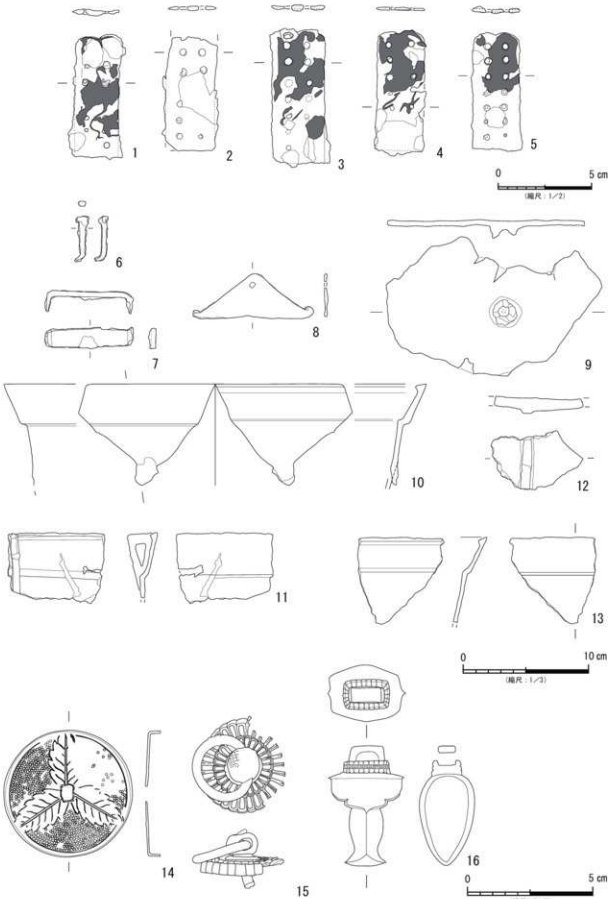
図版No.	PL.No.	調査区	グリッド	遺構	層位	種類	器種	備考	整理No.
18図16	PL.33-16	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	照寧元寶　北宋1068年　2次被熱　行書　外径23.62mm×内径19.25mm×厚1.48mm　量目3.09g	222
18図17	PL.33-17	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	照寧元寶　北宋1068年　2次被熱　真書　外径23.83mm×内径19.68mm×厚1.32mm　量目3.09g	225
18図18	PL.33-18	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	照寧元寶　北宋1068年　2次被熱　行書　外径23.55mm×内径19.78mm×厚1.13mm　量目3.15g	226
18図19	PL.33-19	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	照寧元寶　北宋1068年　2次被熱　行書　外径24.58mm×内径20.06mm×厚1.48mm　量目3.43g	248
18図20	PL.33-20	11～1	9I13		層	銅製品	銭	元豊通寶　北宋1078年　2次被熱　行書　外径24.51mm×内径19.62mm×厚1.31mm　量目3.58g	74
18図21	PL.33-21	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	元豊通寶　北宋1078年　2次被熱　行書　外径24.23mm×内径18.11mm×厚1.83mm　量目3.57g	242
18図22	PL.33-22	11～1	9I13		層	銅製品	銭	元祐通寶　北宋1086年　2次被熱　外径24.02mm×内径17.69mm×厚1.11mm　量目3.37g	71
18図23	PL.33-23	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	元祐通寶　北宋1086年　2次被熱　行書　外径23.98mm×内径19.77mm×厚1.39mm　量目3.21g	224
18図24	PL.33-24	11～2	10J4		層	銅製品	銭	元祐通寶　行書　北宋1086年　外径25.19mm×内径18.96mm×厚1.25mm　量目3.46g	337
19図1	PL.34-1	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	紹聖元寶　北宋1094年　2次被熱　篆書　外径24.03mm×内径19.89mm×厚1.07mm　量目2.64g（No.249と2枚重ね）	261
19図2	PL.34-2	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	聖宋元寶　北宋1101年　行書　外径24.52mm×内径18.55mm×厚3.44mm　量目2.86g　背上月	351
19図3	PL.34-3	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	政和通寶　北宋1111年　2次被熱　篆書　外径24.91mm×内径21.22mm×厚1.27mm　量目2.75g	243
19図4	PL.34-4	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	政和通寶　北宋1111年　2次被熱　篆書　外径24.51mm×内径20.65mm×厚1.49mm　量目3.52g（No.225と2枚重ね）	260
19図5	PL.34-5	8上	8I8		層	銅製品	銭	淳熙元寶　南宋1127年　背十二　真書　外径24.12mm×内径18.16mm×厚1.35mm　量目2.66g	31
19図6	PL.34-6	8上	8I8		層	銅製品	銭	紹熙元寶　南宋1190年　背五　外径24.22mm×内径19.19mm×厚3.47mm　量目2.80g	28
19図7	PL.34-7	11～1	9I13		層	銅製品	銭	至大通寶　元1310年　2次被熱　外径23.09mm×内径18.91mm×厚32.08mm　量目4.97g	67
19図8	PL.34-8	11～1	9I13		層	銅製品	銭	洪武通寶　明1368年　背下福　2次被熱　外径24.69mm×内径20.16mm×厚1.31mm　量目3.44g	73
19図9	PL.34-9	8上	8I		層	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　外径25.16mm×内径20.26mm×厚3.54mm　量目3.34g	17
19図10	PL.34-10	11～1	9I13		層	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　外径25.00mm×内径20.15mm×厚3.40mm　量目3.76g	66
19図11	PL.34-11	11～1	9I13		層	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　外径25.31mm×内径21.07mm×厚3.28mm　量目3.12g	72
19図12	PL.34-12	11～1	9I13		層	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　2次被熱　外径24.95mm×内径20.57mm×厚3.32mm　量目4.09g	188
19図13	PL.34-13	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　2次被熱　外径25.74mm×内径21.26mm×厚3.32mm　量目3.04g	244
19図14	PL.34-14	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　2次被熱　外径25.70mm×内径21.68mm×厚3.52mm　量目3.27g（No.261と2枚重ね）	249
19図15	PL.34-15	11～1	9J15		層	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　外径25.01mm×内径20.01mm×厚3.10mm　量目2.51g	255
19図16	PL.34-16	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	永楽通寶　明1408年　外径24.77mm×内径20.98mm×厚3.40mm　量目3.01g	350
19図17	PL.34-17	8上	8I8		層	銅製品	銭	開元通寶　唐621年　外径21.72mm×厚30.66mm　量目1.04g（No.111と2枚重ね）	27
19図18	PL.34-18	8上	8I8		層	銅製品	銭	開元通寶　唐621年　外径22.11mm×厚30.73mm　量目1.23g（No.27と2枚重ね）	111
19図19	PL.34-19	8上	8I8		層	銅製品	銭	開元通寶　唐621年　外径22.81mm×厚30.97mm　量目1.56g	29
19図20	PL.34-20	11～1	9I13		層	銅製品	銭	開元通寶　銭紐、磁鉄付着　外径21.80mm×厚31.02mm　量目1.48g（No.69,77,78,89と5枚重ね）	79
19図21	PL.34-21	11～1	9I13		層	銅製品	銭	開元通寶　銭紐、磁鉄付着　外径22.03mm×厚30.86mm　量目1.38g（No.69,77,78,79と5枚重ね）	80
19図22	PL.34-22	11～2	10I2		層	銅製品	銭	開元不明　唐31.19mm　量目1.18g	159
19図23	PL.34-23	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	開元不明　2次被熱　外径20.86mm×厚30.96mm　量目0.76g	240
19図24	PL.34-24	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	銭	開元不明　2次被熱　外径21.74mm×厚31.00mm　量目0.94g	241
17図14	PL.35-1	11～3	10J23	土壌4	層上	銅製品	鐎付金具	室町時代　外径5.10cm×厚30.1cm　重15.7g	353
17図15	PL.35-2	8下	8I3		地土範囲	銅製品	鐎座	取手　外径3.70cm　重517.09g	384
17図16	PL.35-3	11～3	10J25		畝状上引	銅製品	足金物	刀装具　南北朝～室町時代　長5.8cm×幅3.0cm×厚30.2cm　重23.58g	361
20図1	PL.35-4	8下	7I23		ko-d下砂利層	骨角製	櫛	鹿角製　一部破損　2次被熱　長5(3.0)cm×幅1.1cm×厚50.4cm	接合No.4
20図2	PL.35-5	8下	8I3		ko-d下砂利層	骨角製	櫛	クジラ製？　一部破損　2次被熱　長5(10.0)cm×幅0.70cm×厚30.65cm	接合No.7
20図3	PL.35-6	8下	7I23		ko-d下砂利層	骨角製	中柄	鹿角製　一部破損　2次被熱　長5(1.95)cm×幅0.80cm×厚30.55cm	10
20図4	PL.35-7	11～3	10J23	土壌4	層上	骨角製	中柄	一部破損　長5(4.05)cm×幅0.45cm×厚30.35cm	接合No.38
20図5	PL.35-8	8下	7I23		ko-d下砂利層	骨角製	中柄	クジラ製？　一部破損　2次被熱　長5(5.23)cm×幅0.70cm×厚30.42cm	接合No.3
20図6	PL.35-9	8下	7I23		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(6.42)cm×幅0.73cm×厚30.63cm	接合No.43
20図7	PL.35-10	8下	7I23		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(6.31)cm×幅0.70cm×厚30.40cm	接合No.34
20図8	PL.35-11	8下	7I24		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(6.68)cm×幅0.67cm×厚30.40cm	接合No.42
20図9	PL.35-12	8下	7I23		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(6.95)cm×幅0.79cm×厚30.59cm	接合No.47
20図10	PL.35-13	8下	7I23		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(8.91)cm×幅0.78cm×厚30.32cm	接合No.36
20図11	PL.35-14	8下	7I23		ko-d下砂利層	骨角製	中柄	クジラ製？　先端後端破損　2次被熱　長5(10.05)cm×幅0.72cm×厚30.62cm	接合No.5
20図12	PL.35-15	8下	7I23		層	骨角製	中柄	先端後端破損　長5(10.29)cm×幅0.71cm×厚30.68cm	接合No.44
20図13	PL.35-16	8下	7I23		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(10.50)cm×幅0.71cm×厚30.76cm	接合No.35
20図14	PL.35-17	8下	7I23		層	骨角製	中柄	一部破損　長5(10.30)cm×幅0.63cm×厚30.46cm	接合No.45
20図15	PL.36-1	11～3	10I21		層	石製品	茶臼	下臼　口径35.0cm×器高4.3cm	321
20図16	PL.36-2	8下	8I3		畝状上引	石製品	茶臼	上臼　口径18.6cm	277
20図17	PL.36-3	11～1	9I9J		層	石製品	砥石	仕上砥　長5(6.3)cm×幅3.8cm×厚30.6cm	163
20図18	PL.36-4	10	11K5	空堀	集石	石製品	砥石	仕上砥　長5(8.1)cm×幅3.5cm×厚30.75cm	177
20図19	PL.36-5	7	8H17	集石	層上	石製品	砥石	中砥　長5(5.4)cm×幅4.9cm×厚30.3cm	34
20図20	PL.36-6	11～1	9I12		畝状上引	石製品	砥石	仕上砥　長5(12.2)cm×幅3.5cm×厚5.3cm	接合No.31
20図21	PL.36-7	11～1	9I9J		層	石製品	温石	長5(7.0)cm×幅5.3cm×厚31.6cm	176
20図22	PL.36-8	11～1	9I12		畝状上引	磁石器	磨製石斧	2次被熱　長5(8.8)cm×幅4.2cm×厚32.4cm	204



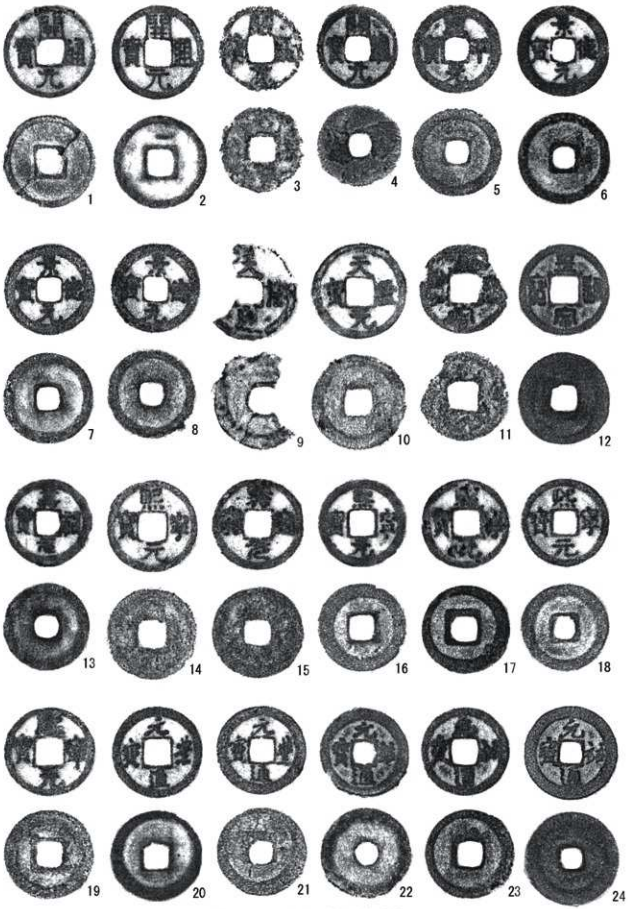
第 15 図　出土遺物（青磁・白磁・古瀬戸）



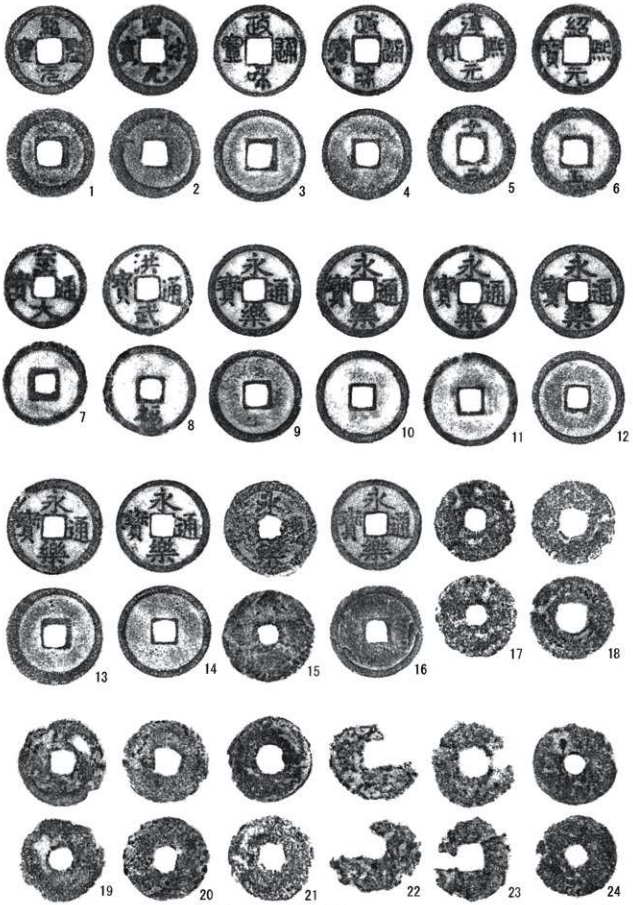
第 16 図　出土遺物（珠洲）



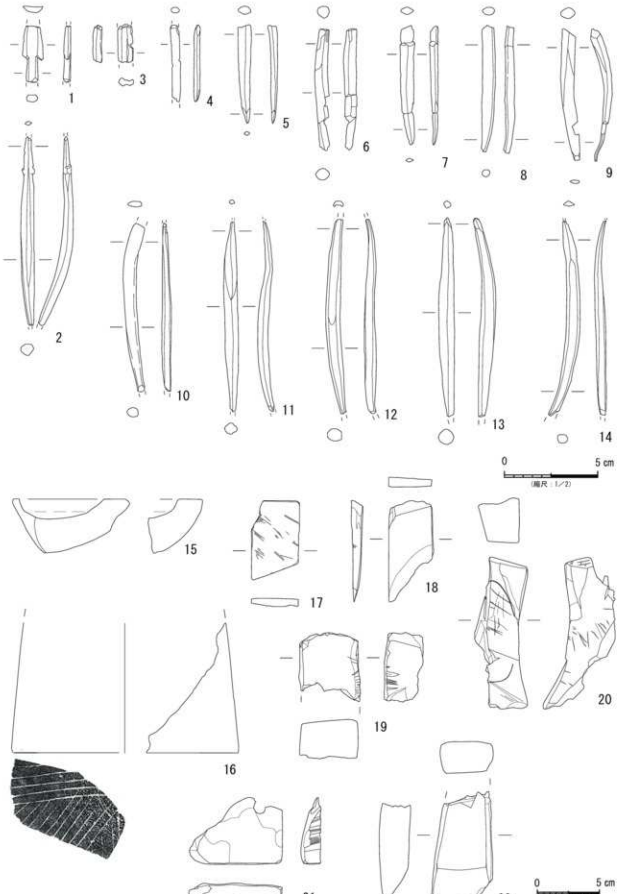
第 17 図　出土遺物（鉄製品・銅製品）



第18図　出土遺物（銅銭）　　原寸大



第19図　出土遺物（銅銭）　原寸大



第 20 図　出土遺物（骨角器・石製品・石器）

9. 洲崎館跡の調査

調査は、洲崎館跡の空堀と土塁、柱穴や柵などの遺構を確認する目的で行った。調査区は、土塁・空堀を確認するために第1調査区を設定し、柱穴や柵を確認するために第2調査区を設定した。

第1調査区（第21図、PL 26～27）

〔調査区〕砂館神社東側の土塁状に堆積した砂丘の北側の標高9.7～10.3mの窪地にあたる。調査区は、13J11・12・16・17・22グリッドに10m×3mの調査区を設定している。

〔層位〕近現代に相当するⅠ層（層厚約10～35㎝）、近世に相当するⅡa層、Ⅱb層（各層厚約10～20㎝）、表土より45㎝下でⅡa層とⅡb層の間に1640年に降灰のKo-d層（層厚最大約40㎝）が確認されている。空堀の下には、地山層と思われる砂層のⅤ層が確認されている。また、北端では一部攪乱がみられた。

〔検出遺構〕Ko-d層下で空堀と土塁状の遺構を検出した。

〔出土遺物〕中世に遡る遺物はみつからなかった。近世以降の瓦10点、18～19世紀の肥前系陶磁器5点、近代の瀬戸美濃系陶磁器1点、寛永通寶（3期）1点が出土している。

空堀（第21図、PL26～27）

〔位置〕13J11・12・16・17・22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向に延び、毛抜堀のように堀底がU字型を呈する。

長さは残存値120㎝、上面幅は444㎝、底面幅100㎝、深さ115㎝を測る。

〔堆積土〕5層に分層され、自然堆積を呈している。

〔新旧関係〕土塁状の高まりは、空堀の掘削土であるため、土塁とほぼ同時期に構築されている。

〔出土遺物〕なし

土塁（21図、PL26～27）

〔位置〕空堀外側の13J11・12・16グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東の方向に延び、北側部分が調査区外へ広がるため、形態の把握はできなかった。残存値は、長さ128㎝、幅347㎝、高さ5㎝を測る。調査では、幅や深さの規模を確認できるまで掘削していないため、次年度の調査で確認をしたい。

〔堆積土〕にぶい黄褐色の砂質土を堆積している。

〔新旧関係〕2次堆積を呈するため、空堀構築時の掘上げ土と思われ、空堀とほぼ同時期である。

〔出土遺物〕なし

第2調査区（21図、PL28）

〔調査区〕砂館神社西側で標高12m前後の砂丘上の平坦地にあたる14L11・12・16・17・18グリッドに8m×2mの調査区を設定している。

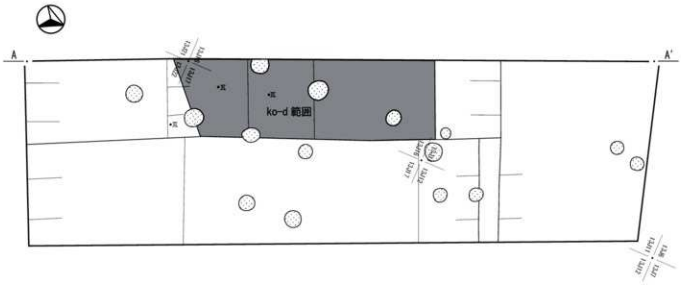
〔層位〕Ⅰ層を除去後に一部トレンチでⅡ層上面まで検出している。調査途中であったが埋め戻しをして今年度は終了している。

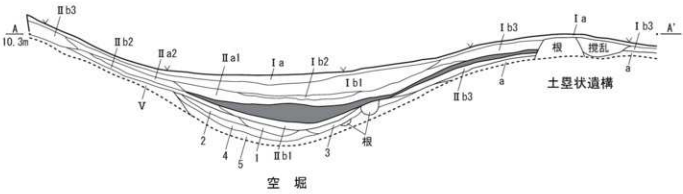
〔検出遺構〕柱穴もしくは杭穴と思われるPit1～6が40～45㎝の間隔で、それぞれ直径が約20㎝を測り、砂館神社に平行する形で列状に検出した。確認面がⅠ層上面であったことから、近世以降の新しい時期に構築された遺構と考えられた。第1調査区同様に保安林の可能性もあるため、次年度の調査で確認をしたい。

〔出土遺物〕なし

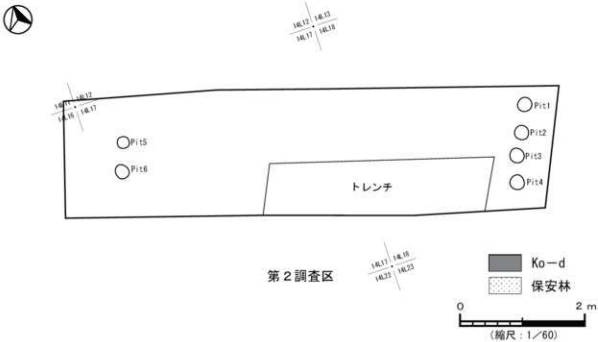
表25 第1調査区 南北西壁セクション 土層観察表（A～A'）

	Ⅰa	10YR2/2	黒褐色砂質土	ややハード	草根多量
	Ⅱb1	10YR6/1	褐灰砂質土	ややソフト	
	Ⅱb2	10YR6/1	褐灰砂質土	ややハード	
	Ⅱb3	10YR6/2	灰黄褐色砂質土	ややハード	
	Ⅱa1	10YR5/2	灰黄褐色砂質土	ややハード	
	Ⅱa2	10YR5/2	灰黄褐色砂質土	ややソフト	
	Ⅱb1	10YR2/1	黒色シルト	ソフト	
	Ⅱb2	10YR2/2	黒褐色シルト	ややソフト	
	Ⅱb3	10YR2/3	黒褐色シルト	ややソフト	
	Ⅴ	10YR6/2	灰黄褐色砂質土	ソフト	
空堀	1	10YR3/3	暗褐色シルト	ややソフト	
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色砂質土	ソフト	
	3	10YR3/2	黒褐色シルト	ややソフト	
	4	10YR3/2	黒褐色シルト	ソフト	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐色砂質土	ソフト	
土塁状遺構	a	10YR5/3	にぶい黄褐色砂質土	ソフト	





第１調査区



第２調査区

第21図　第１・２調査区　平面図・セクション図

Ⅲ　まとめ

１．花沢館跡の調査成果

今年度は、今後の史跡整備を見据えて史跡指定地内で遺構確認調査を実施した。全体の縄張りの様相については、次年度が発掘調査の最終年のため、その結果や過年度の測量調査（北海道庁 1918)、室野秀文氏の縄張り調査（上ノ国町教委 2007）を踏まえて次年度の報告で総括したい。

（１）検出遺構

①主郭・腰曲輪群

今年度の調査では、頂上部の主郭にあたる平坦面（第 11 調査区）や北側斜面に構築される腰曲輪状の平坦面（第 1～3、8 調査区）の調査を行い、それらが中世に造成された地形であることを確認した。

北側斜面の腰曲輪群は、腰曲輪 1（第 8 調査区上)、腰曲輪 2（第 8 調査区下)、腰曲輪 3・4（第 1 調査区）腰曲輪 5（第 2・3 調査区）としたが、今回の調査で柵などの防御遺構の検出には至っていない。

②建物跡

第 11-3 調査区では、掘方を持たない柱穴状の遺構（Pit6～10）を検出している。第 11-2・3 調査区では、旧地形で平坦面が確認されることから、特に東側平坦面とした第 11-2～3 調査区間での建物跡の存在が考えられた。

③旧道跡

第 1・4・9 調査区では、西側斜面に大手から搦手を結ぶ幅 70～85 ㎝の旧道跡を確認できたものの、現状では斜面からの崩落土が堆積しており、道幅が狭くなっている。第 7 調査区でも旧道の窪みを検出できたが、その周辺において旧道としての繋がりを確認できなかった。

④空堀・土塁

第 5 調査区は、大手の空堀・土塁跡、第 10 調査区で搦手の空堀・土塁跡を検出した。第 10 調査区の空堀は、平成 16・17 年度の発掘調査でも確認されており、今回の調査でその位置や規模などを確認することができた。土塁については、後世の耕作による削平でその高さを確認することができなかった。

また、第 5 調査区では自然堆積とした（アー～ク）の上位に空堀を掘削した土塁基底部と思われる人為堆積（A～D）が確認された。土塁は、第 10 調査区同様に後世の耕作による削平で、土塁上部が壊され基底部が残存する状態であったため、土塁の高さを確認することができなかった。

大手の空堀は、U 字形ないしは箱堀状を呈して幅 2.2m、深さ 0.7m で、1470 年代の戦国期の築城である勝山館跡の空堀と比較すると規模が非常に小さいものとなっている。

⑤焼土面

第 8・11-1～3 調査区では、焼土面が検出している。焼土面では、被熱によって硬化した面の上層に堆積した黒色土もしくは黒褐色土に礫や遺物が混入する。第 8 調査区下では、焼土面に伴って被熱した遺物（第 17 図-15）も確認され、さらに第 8 調査区上下で接合関係がみられるなど、第 8 調査区上からの一括廃棄が考えられる。

第 11-1～3 調査区では、東側平坦面とした箇所で南北方向に線上に焼土面が連続する。焼土面には、第 8 調査区下と同様に廃棄したと思われる遺物や礫が多く確認されている。また、11-1・3 調査区間では、接合関係がみられた。

焼土面が生じた理由については、長禄元（1457）年の「コシャマインの戦い」での進攻によるものか、もしくは寛正 3（1462）年に館主である蠣崎季繁が卒去した際の廃城に伴う焼失が想定された。

（２）出土遺物

出土遺物は、頂上部の主郭にあたる平坦面（第 11 調査区）や腰曲輪 1・2（第 8 調査区）でその大半が確認されている。

陶磁器は、青磁龍泉窯系碗 B2・C2・D2・E 類、白磁皿・坏 D 群、古瀬戸卸皿・茶入、珠洲擂鉢ではⅤ

期を主体として、Ⅵ期も出土している。過年度調査のものを含めると、これらに青磁龍泉窯系皿・盤、青磁染付碗B群、瀬戸皿（後期）が加わり、15 世紀中頃のまとまった年代の陶磁器組成となっている。

今年度の調査で特筆すべき遺物は、骨角器・古瀬戸茶入・鐶付金具などである。骨角器は、花沢館跡より遅れて築城した洲崎館跡や勝山館跡で既に出土しているが、花沢館跡では今回の調査で初めての出土となる。

また、アイヌ関連の資料としても花沢館跡では初出となることから、館内においてアイヌの存在が想定された。

古瀬戸茶入は、茶臼、茶筅刷りのある青磁碗及び茶釜蓋（過年度調査で出土）などの存在から頂上部の景色の良い場所で抹茶を喫していたことが想像され、見張りなどの軍事的な使用だけでなく、文化的な活動も館内で行っていたことが考えられた。

鐶付金具は、木製容器や建具などの把手としての用途が想定され、抹茶を喫する所作を行っていたことや鐶付金具の出土を併せて考えると、これらの遺物が出土した主郭（東側平坦面）において建物が存在する可能性が高くなった。

②花沢館跡の下限年代

花沢館跡の下限年代を示す資料は、青磁雷文帯碗（C2 類）、青磁無文直口碗（E 類）、染付碗（B 群）が挙げられる。これらは、1442 年頃の廃絶とされる十三湊遺跡(青森県五所川原市)や 1457 年頃の廃絶が想定される志苔館跡（函館市）で確認されない資料であることから、花沢館跡が『新羅之記録』に記されるとおり、長禄元（1457）年の「コシャマインの戦い」後まで館が機能した根拠とする一群である。今年度の調査では、下限年代を示す青磁雷文帯碗（C2 類）、青磁無文直口碗（E 類）も被熱をしていた。

過年度の調査成果では、花沢館跡の下限年代を花沢館跡から出土する擂鉢がすべて珠洲に対し、勝山館跡ではその大半が越前で構成されるため、勝山館跡が築かれる 1470 年代より以前の廃絶が考えられていた。そのため、花沢館跡では、少なくとも「福山秘府」に記される蠣崎季繁の没年代の寛正 3（1462）年までの存続が想定されていた。

そして、焼土面が生じた理由については、先に長禄元（1457）年の「コシャマインの戦い」での進攻によるものか寛正 3（1462）年に館主である蠣崎季繁が卒去した際の廃城に伴う焼失を想定したところである。仮に焼土面の根拠を長禄元（1457）年の「コシャマインの戦い」によるものとした場合は、1457 年に一度落城し、その影響で焼失したものの 1462 年頃まで使用して廃城となったか、もしくは 1457 年には既に青磁雷文帯碗（C2 類）、青磁無文直口碗（E 類）、染付碗（B 群）が花沢館跡まで流通し、「コシャマインの戦い」による廃絶などが想定された。

2．洲崎館跡の調査成果

洲崎館跡は、土塁・空堀の検出を目的とした第 1 調査区及び柵や建物跡の検出を目的とした第 2 調査区で調査を行った。

第 1 調査区では、空堀と思われる遺構を検出し、その外側に土塁状の高まりを確認したが明確に土塁を確認するまでに至らなかった。そのため、次年度以降は土塁の確認やさらにその外側の窪地で空堀が存在するかの確認を行いたい。

第 2 調査区では、時期不明の Pit1～6 が検出された。これらは、掘削をしておらず、遺構の平面プランを検出したのみであったため、その性格を明確にすることができなかった。建物とした場合は柱間が 40～45cm と狭いものとなる。

また、柵とした場合も花沢館跡や勝山館跡で検出される柵が布掘りで構築されるため、その可能性は低いと思われる。昨年度の調査では、保安林造成の際に植林した樹木痕が等間隔に並んで検出されたため、Pit1～6 もそれらの可能性が考えられる。

調査前（南東から）

溝1検出状況（北東から）

腰曲輪4検出状況（北西から）

礫検出状況（北から）

溝2・3検出状況（北から）

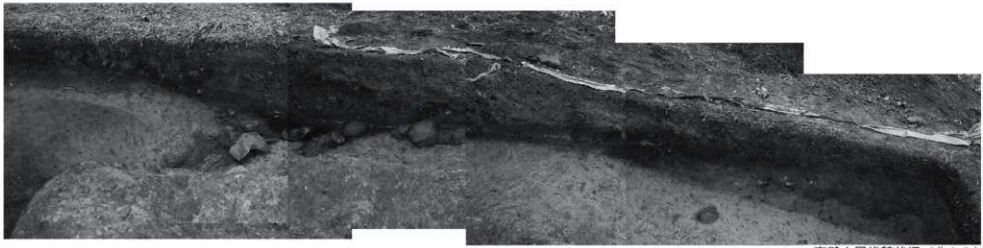
青磁出土状況（西から）

腰曲輪3・4検出状況（東から）

埋め戻し状況（南東から）

南壁土層堆積状況（北から）

南壁土層堆積状況（北から）



南壁土層堆積状況（北から）

調査前（南から）

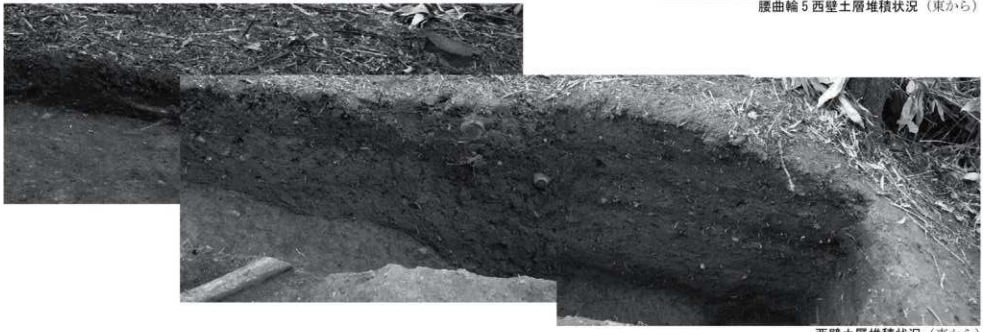
溝状遺構検出状況（東から）

腰曲輪5造成土検出状況（南東から）

トレンチ掘削状況（南から）

埋め戻し状況（南から）

腰曲輪 5 西壁土層堆積状況（東から）



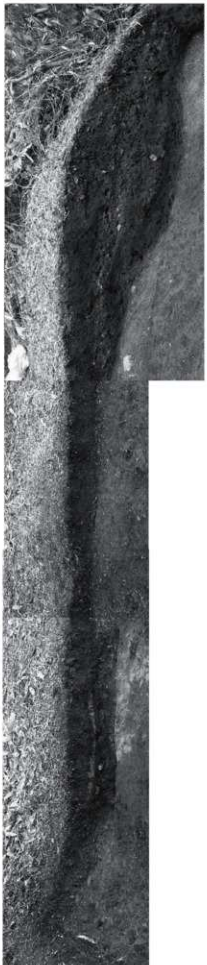
西壁土層堆積状況（東から）

調査前（南から）

溝状遺構状況（南から）

腰曲輪5造成土検出状況（東から）

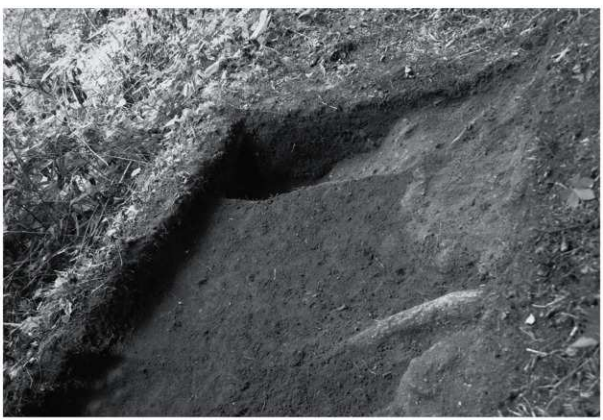
埋め戻し状況（南から）



腰曲輪5西壁土層堆積状況（東から）

調査前（南から）

埋め戻し状況（南から）



旧道検出状況（南から）

北壁土層堆積状況（南から）

調査前
（南から）

Ⅲ層検出状況
（東から）

Ko-d 火山灰検出状況
（東から）

空堀・土塁（大手）西壁土層堆積状況（東から）

空堀（大手）検出状況（東から）

空堀　鉄鍋出土検出状況（北から）

埋め戻し状況（南から）

調査前（南東から）

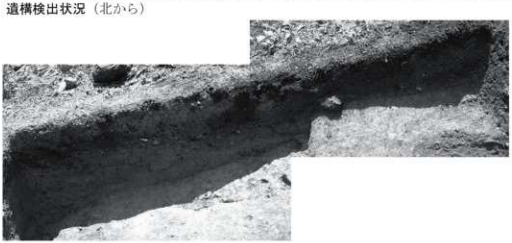
表土除去後（南から）

土壙1・2半截状況（北から）

白磁出土状況（南から）

土壙3　炭化物出土状況（南から）

遺構検出状況（北から）

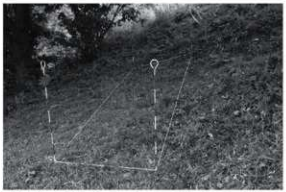


東壁土層堆積状況（西から）

南壁土層堆積状況（北から）

土壙3　青磁出土状況（西から）

埋め戻し状況（南東から）



調査前（南から）

集石遺構検出状況（北から）

集石遺構検出状況（北から）

古瀬戸茶入出土状況（東から）

西壁土層堆積状況（東から）

埋め戻し状況（北から）

調査前状況（南から）

Ko-d 火山灰検出状況（南東から）

青磁出土状況（東から）

腰曲輪1検出状況（東から）

腰曲輪1検出状況（南から）

埋め戻し状況（南から）

西壁土層堆積状況（東から）

調査前（西から）

腰曲輪2　Ko-d 火山灰検出状況（南から）

腰曲輪2　遺物出土状況（東から）

腰曲輪2　遺物出土状況（北から）

骨角器出土状況（北から）

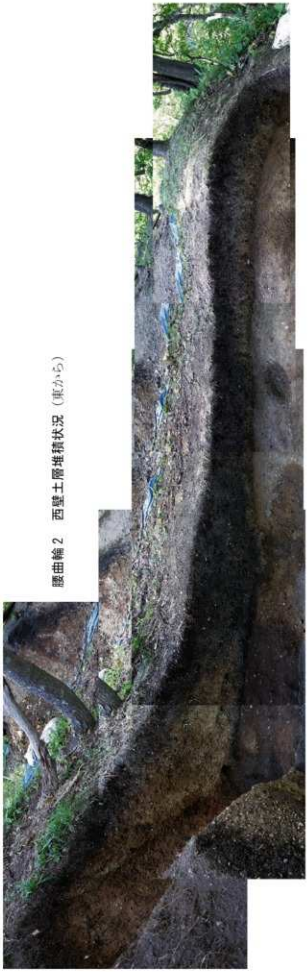
焼土面検出及び遺物出土状況（東から）

青磁・珠洲出土状況（北から）

青磁・白磁・珠洲・茶臼出土状況（西から）

焼土面半截状況（北から）

銅製品（鐶座）出土状況（西から）



曲輪2　西壁土層堆積状況（東から）

切岸検出状況（北東から）

珠洲出土状況（北から）

埋め戻し状況（西から）

調査前（南から）

北壁土層堆積状況（南から）

旧道検出状況（北から）

内耳鉄鍋片出土状況（西から）

埋め戻し状況（南から）

調査前（北から）

Ko-d 火山灰検出状況（西から）

空堀（搦手）　礫出土状況（西から）

空堀（搦手）砥石出土状況（西から）

空堀（搦手）検出状況（南から）

空堀・土塁（横手）西壁土層堆積状況（東から）

土塁（搦手）検出状況（南から）

埋め戻し状況（西から）

調査前（北東から）

銅銭（2次被熱）出土状況（南から）

焼土面　遺物出土状況（南から）

青磁・白磁・磨製石斧出土状況（西から）

西側斜面　遺物出土状況（西から）

温石出土状況（西から）

埋め戻し状況（北から）

遺構調査写真（第Ⅱ－Ⅰ調査区）

北壁土層堆積状況（南から）

北壁土層堆積状況（南から）

調査前（南から）

焼土面検出状況（西から）

青磁出土状況（北から）

焼土面半截状況（東から）

西側斜面　遺物出土状況（北東から）

青磁・白磁・珠洲出土状況（西から）

西側斜面　トレンチ掘削状況（西から）

埋め戻し状況（南から）

北壁土層堆積状況（南から）

北壁土層堆積状況（南から）

調査前状況（北から）

東側平坦面　Pit6・7検出状況（南から）

東側平坦面　遺物出土状況（東から）

東側平坦面　足金物出土状況（西から）

東側平坦面　焼土面検出状況（南西から）

西側平坦面　遺物出土状況（北から）

白磁出土状況（北から）

土壙４遺物出土状況（西から）

銅製品（銭・鐶付金具）出土状況（北から）

西側平坦面　溝４・Pit８～10検出状況（南西から）

調査風景（北東から）

埋め戻し状況（北から）

北壁土層堆積状況（南から）

北壁土層堆積状況（南から）

調査前（南西から）

表土除去後（南西から）

空堀　Ko-d 火山灰検出状況（南東から）

調査風景（南東から）

空堀検出状況（東から）

空堀・土塁西壁土層堆積状況（東から）

空堀検出状況（北から）

埋め戻し状況（南西から）

調査前（西から）

表土層掘削状況（西から）

Pit 1 ～ 6 検出状況（東から）

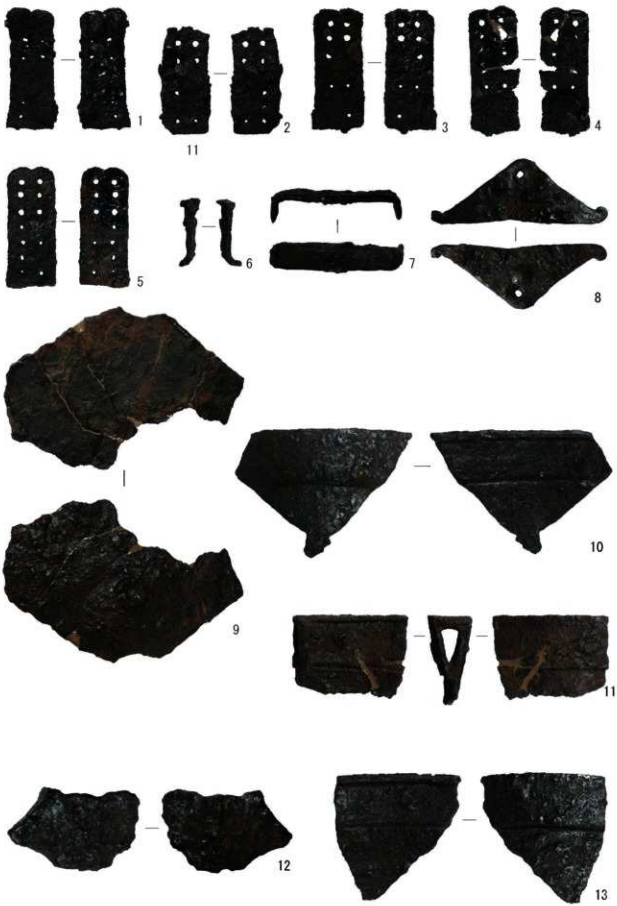
トレンチ掘削状況（北東から）

埋め戻し状況（西から）

1
4
5
2
6
7
8
3
9
10
11
12

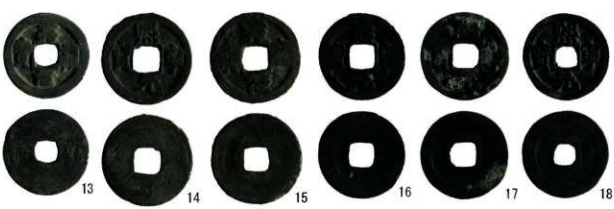
1
2
3
6
7
4
5
8
9
11
12
13
10
14
15
16

1
2

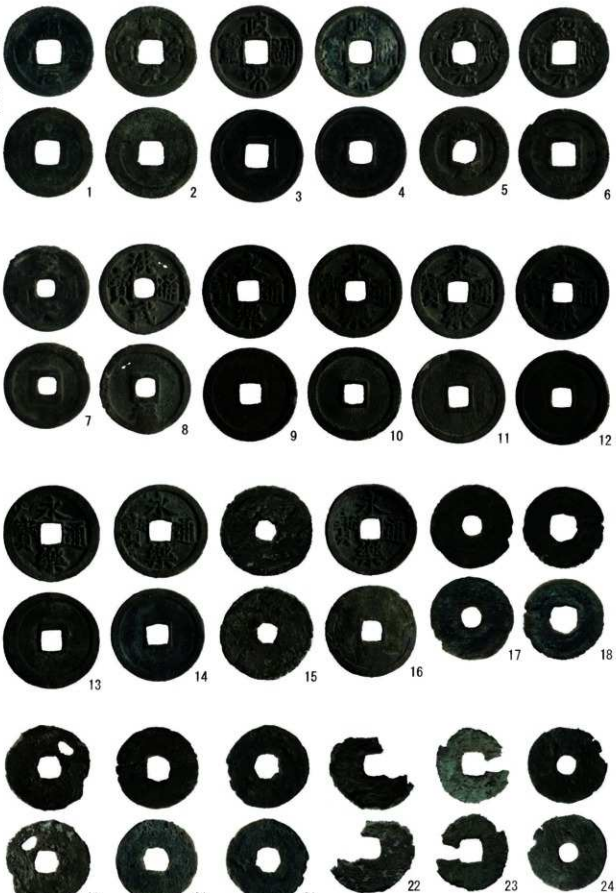

1
2
3
4
11
5
6
7
8
10
9
11
12
13

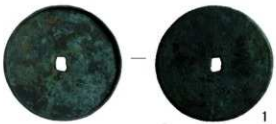
1
2
3
4
5
6

7
8
9
10
11
12


13
14
15
16
17
18

19
20
21
22
23
24


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

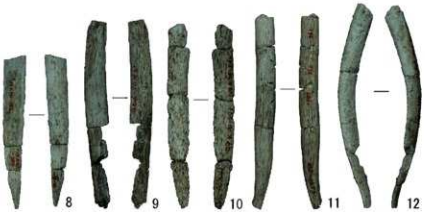

1

2

3

4
6
7

5


8
9
10
11
12

13
14
15
16
17

PL36 遺物写真

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しせきかみのくにたてあと
書 名	史跡上之国館跡VI
副 書 名	平成31年度花沢館跡・洲崎館跡発掘調査事業報告書
巻 次	6
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	塚田直哉 櫻井宏樹
編 集 機 関	上ノ国町教育委員会
所 在 地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 Tel0139-55-2230
発 行 年 月 日	2020年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
史跡上之国館跡 のうち 花沢館跡 洲崎館跡	 上ノ国町字勝山地内 上ノ国町字北村地内	013625	 C-02-70 C-02-25	 41°47′54 41°48′36	 140°6′44 140°7′04	令和1年5月16日 ～ 令和1年11月22日	258㎡ 212㎡ 46㎡	町内遺跡発掘調査等事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
史跡上之国館跡 のうち 花沢館跡 洲崎館跡	城館	中世	・花沢館跡 腰曲輪、空堀、土塁、集石、旧道、溝、焼土面、柱穴、土壙 ・洲崎館跡 空堀、土塁	・花沢館跡 陶磁器(青磁、白磁、珠洲、古瀬戸)、鉄製品(小札、釘、鎹、火打ち金、鍋)、銅製品(足金物、鐙付金具、鐙座、銭)、石製品(温石、砥石、擦り石、磨製石斧)、骨角器(甲冑、鏃)、茶道具関連遺物(茶入、茶臼、茶筅刷付青磁碗)、漆製品(不明)、自然遺物(骨、炭)、不明溶解物 ・洲崎館跡 近世陶磁器(肥前)、銅製品(銭)、瓦	・花沢館跡 遺構確認調査により検出された腰曲輪、切岸、空堀、土塁、焼土面、柱穴などの遺構と出土遺物についての報告書。 ・洲崎館跡 櫓、建物、空堀と土塁の推定箇所の遺構確認により検出された空堀などの遺構と出土遺物についての報告書。

史跡上之国館跡Ⅵ

― 平成31年度花沢館跡・洲崎館跡発掘調査報告書 ―

発　行　上ノ国町教育委員会

北海道檜山郡上ノ国町字大留100

印　刷　令和2年3月15日

発　行　令和2年3月27日

印刷所　有限会社ヨコノ印刷